アレルギー疾患に関する３歳児全都調査

（令和元年度）

報 告 書

令和２年１０月

東京都健康安全研究センター

はじめに

東京都は、子供のアレルギー疾患の実態を把握するため、平成 11 年度から 5 年ごとに本調査を実施しており、令和元年度の調査は、初回から 20 年目、5 回目の調査となります。

東京都は、平成 26 年にアレルギー疾患対策基本法が制定されたことを受け、平成 29 年度に「東京都アレルギー疾患対策推進計画」（以下「計画」という。）を策定しました。計画は、(1) 適切な自己管理や生活環境の改善のための取組の推進、(2) 患者の状態に応じた適切な医療やケアを提供する体制の整備、(3) 生活の質の維持・向上を支援する環境づくりを 3 つの大きな柱としており、都は計画に基づき、アレルギー疾患対策を総合的に推進しているところです。本調査は、計画に基づく施策展開の基礎となるデータを収集し、施策を効果的に推進するために実施するものと位置付けられています。

今回の調査では、診断までに受診を要した医療機関数、アトピー性皮膚炎の治療状況、ステロイド外用薬の治療に対する考え、スキンケアの実態などの質問項目を新たに追加しました。

今回の調査の結果、平成 11 年度の調査開始以来、増加傾向にあった食物アレルギーのり患率は、依然として高い傾向にあるものの、初めて減少となりました。また、ぜん息は、平成 11 年の調査開始以降最も低い割合になりました。

今回の調査で明らかになった結果は、アレルギー疾患対策をより一層進めるための基礎資料として有効に活用していきます。各区市町村や関係者の皆様にもお役立ていただければ幸いです。

終わりに、調査項目や結果のとりまとめなどをご指導いただいた東京都アレルギー疾患対策検討委員会アレルギー疾患対策検討部会の委員の皆様と、調査にご協力いただいた保護者の皆様、区市町村の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和２年１０月

東京都健康安全研究センター
所長　　吉村　和久

目　次

Ⅰ　調査の概要

１　調査目的 ３
２　調査対象及び方法 ３
３　回収状況 ３
４　調査項目 ４
５　調査上の分類と定義 ５
６　調査結果の留意点等 ７

Ⅱ　調査結果

１　対象者の概要 １１
（１）対象者 １１
（２）通所（園）状況 １２

２　アレルギー疾患の状況 １３
（１）アレルギー疾患の症状 １３
（２）アレルギー疾患の診断 １４

３　呼吸器の症状、ぜん息の診断と治療状況 ２２
（１）呼吸器の症状、呼吸器の症状が起きた年齢 ２２
（２）臨床症状に基づくぜん息の重症度分類 ２４
（３）ぜん息で処方されている薬 ２５

４　食物アレルギーの症状、治療状況 ２７
（１）食物アレルギーの症状が起きた年齢 ２７
（２）食物アレルギーで出現した症状 ２８
（３）食物アレルギーの原因食物 ３０
（４）アレルギー食物経口負荷試験の実施状況 ３１
（５）食物アレルギーに対する原因食物の制限または除去の状況 ３２
（６）食物アレルギーによるショック症状及び誤食の状況 ３５

５　アトピー性皮膚炎の症状と治療 ３８
（１）アトピー性皮膚炎の症状が起きた年齢 ３８
（２）アトピー性皮膚炎の治療の内容 ３９
（３）ステロイド外用薬による治療に対する考え ３９

６　スキンケアについて..... ４０

７　アレルギー等に関する情報について..... ４２
（１）アレルギーに関する情報の入手方法..... ４２
（２）アレルギー情報の提供に関する希望..... ４４

８　アレルギー疾患対策に関する希望..... ４５
（１）保育施設・幼稚園等への希望..... ４５
（２）行政（都や区市町村）への希望..... ４６
（３）医療機関への希望..... ４７
（４）アレルギーに関する困りごと..... ４７

９　まとめ及び考察 ４８

Ⅲ　資料編

１　集計データ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５５
２　二次保健医療圏域別データ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８７
３　調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２３

Ⅰ　調査の概要

Ⅰ　調査の概要

１　調査目的

都内の３歳児におけるアレルギー疾患のり患状況を把握して、過去に実施した調査結果と比較し、また、３歳児の保護者におけるアレルギー疾患対策に関するニーズを把握し、今後のアレルギー疾患対策を推進していくための基礎資料とする。

２　調査対象及び方法

令和元年10月に都内区市町村で実施した３歳児健康診査の受診者及びその保護者を対象とした（３歳児健康診査が隔月の町村においては 11 月実施の受診者及びその保護者を対象とした）。区市町村に協力を依頼し、３歳児健康診査の会場で無記名による自記式調査票を保護者 8,343 人に配布し、郵送または Web の入力フォームにより回答を得た。

３　回収状況

回答者数は 2,727 人（回収率 32.7%）

4　調査項目

基本属性（居住地域・性別・通所（園）状況）、アレルギー疾患の状況、アレルギー疾患対策に関する希望等を調査項目とした。

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="5">内容</th></tr>
<tr><td>基本属性
（対象者の概要）</td><td colspan="5">居住地域・性別・通所（園）状況</td></tr>
<tr><td rowspan="6">アレルギー疾患の状況</td><td rowspan="6">症状の有無</td><td rowspan="6">診断の有無</td><td rowspan="6">診断までに受診を要した医療機関数</td><td rowspan="6">通院状況</td><td>呼吸器症状、ぜん息</td></tr>
<tr><td>食物アレルギー</td></tr>
<tr><td>アトピー性皮膚炎</td></tr>
<tr><td>アレルギー性鼻炎（花粉症含む）</td></tr>
<tr><td>アレルギー性結膜炎
（花粉症含む）</td></tr>
<tr><td>じんましん</td></tr>
<tr><td>ぜん息、ぜん息性気管支炎、小児ぜん息の症状がある方、または診断された方への質問</td><td colspan="5">症状・治療状況</td></tr>
<tr><td>食物アレルギーの症状がある方、または診断された方への質問</td><td colspan="5">症状・治療状況、食物経口負荷試験実施状況、
食物除去・誤食の状況</td></tr>
<tr><td>アトピー性皮膚炎の症状がある方、または診断された方への質問</td><td colspan="5">症状・治療状況</td></tr>
<tr><td rowspan="5">全ての方への質問</td><td colspan="5">未摂取食品</td></tr>
<tr><td colspan="5">スキンケア状況</td></tr>
<tr><td colspan="5">アレルギーに関する情報の入手方法</td></tr>
<tr><td colspan="5">アレルギーに関する情報提供、アレルギー疾患対策に関する希望（保育施設・幼稚園等、行政、医療機関）</td></tr>
<tr><td colspan="5">アレルギー疾患に関する困りごと</td></tr>
</table>

5　調査上の分類と定義

調査における症状と診断の定義を下記に示す。

「症状あり」の定義

分　類	定　義	(参考) 平成 11 年度・平成 16 年度・平成 21 年度・平成 26 年度 調査の定義
呼吸器症状	これまでに、セキこんだり息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」するなど、苦しそうな症状があった者	これまでに、セキこんだり息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」するなど、苦しそうな症状が、２回以上あった者
食物アレルギー症状	これまでに、食事が原因と思われるアレルギー症状を起こした者	同左
アトピー性皮膚炎症状	これまでに、アトピー性皮膚炎があった者（皮膚の乾燥とかゆみを伴う湿疹をくり返す）	同左
アレルギー性鼻炎症状 （花粉症を含む）	これまでに、アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）の症状があった者（くしゃみや鼻水、鼻づまりが長引く）	同左
アレルギー性結膜炎症状 （花粉症を含む）	これまでに、アレルギー性結膜炎（花粉症を含む）の症状があった者（目のかゆみや充血が長引く）	同左
じんましん症状	これまでにじんましんの症状があった者	同左

「診断あり」の定義

分類	今回調査・平成 26 年度調査の定義	(参考) 平成 11 年度・平成 16 年度・平成 21 年度 調査の定義
ぜん息	これまでに「ぜん息」、「ぜん息性気管支炎」又は「小児ぜん息」と医師に診断されたことがある者	症状があり、これまでに「ぜん息」、「ぜん息性気管支炎」または「小児ぜん息」と医師に診断された者
食物アレルギー	これまでに「食物アレルギー」と診断されたことがある者	症状があり、かつ「食物アレルギー」と医師に診断された者
アトピー性皮膚炎	これまでに「アトピー性皮膚炎」と診断されたことがある者	症状があり、かつ「アトピー性皮膚炎」と医師に診断された者
アレルギー性鼻炎 （花粉症を含む）	これまでに「アレルギー性鼻炎」と診断されたことがある者	症状があり。かつ「アレルギー性鼻炎」と医師に診断された者
アレルギー性結膜炎 （花粉症を含む）	これまでに「アレルギー性結膜炎」と診断されたことがある者	症状があり、かつ「アレルギー性結膜炎」と医師に診断された者
じんましん	これまでに「じんましん」と診断されたことがある者	症状があり、かつ「じんましん」と医師に診断された者

注）＿＿＿は、調査結果を記載するに当たって、この調査で特別に配慮する部分である。

臨床症状に基づく重症度分類

分類	定義
間欠型	セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、年に数回、季節的にあった。ときに呼吸困難を伴うこともあったが、そのときだけ気管支を広げる薬（β_2刺激薬）を使い、短期間で症状は改善した。
軽症持続型	セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、月１回以上、週１回未満あった。ときに呼吸困難を伴うこともあったが、長く続くことはなく、日常生活が障害されることは少なかった。
中等症持続型	セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、週１回以上あったが、毎日続くほどはなかった。ときに中・大発作となり日常生活が障害されることがあった。
重症持続型	セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、毎日あった。週に１～２回、その症状により日常生活や睡眠が障害されることがあった。
最重症持続型	治療を受けても重症持続型の状態が続いた。しばしば夜間の中・大発作で時間外受診し、入退院をくり返し、日常生活が制限された。

出典：「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2017」から一部抜粋

ATS-DLD と ISAAC の問診用紙による診断の定義

分類	定義
ATS-DLD	１．喘息：以下の１）～６）の項目に「はい」と回答した者 ２．喘息寛解：以下の１）～５）の項目に「はい」と回答し、かつ６）の項目に「いいえ」と回答した者 １）これまで胸がゼーゼーとか、ヒューヒューして、急に胸が苦しくなる発作を起こしたことがある。 ２）そのような発作は今まで２回以上ある。 ３）医師に喘息、喘息様気管支炎または小児喘息といわれたことがある。 ４）そのとき、息をするとゼーゼーとかヒューヒューという音がした。 ５）そのとき、胸がゼーゼーとかヒューヒューして息が苦しくなった。 ６）この２年間に発作（症状）を起こしたことがあるか、喘息、喘息様気管支炎、または小児喘息で治療を受けたことがある。 ３．喘鳴：以下の１）～３）の項目に「はい」と回答し、かつ喘息、喘息寛解に該当する者を除いた者 １）息をするときに、ゼーゼーとか、ヒューヒューという音がすることがある。 ２）それは、かぜをひいたときである。 ３）この２年間に、胸がゼーゼーとかヒューヒューすることが２回以上ある。
ISAAC	１．喘鳴（既往） ・あなた（のお子さん）はいままでに、胸がゼーゼー、またはヒューヒューいったことがありますか。 ２．喘鳴（現在） ・あなた（のお子さん）は最近 12 か月間に、胸がゼーゼー、またはヒューヒューいったことがありますか。 ３．医師の診断（喘息累積） ・あなた（のお子さん）はいままでに喘息といわれたことがありますか。

出典：「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2017」から一部抜粋

６　調査結果の留意点等

本報告書における調査結果の留意点等を以下に示す。

①　過去の調査結果との比較に当たっては、調査票の構成及び設問方法等が異なる項目もあるため、同様の基準で再集計するなどにより比較を行った。なお、過去の調査結果は斜体で示した。

②　χ^2検定を行ったものについては、その結果を記載した。

③　この報告書に掲載の数値は四捨五入してあるため、総数と内訳の合計が一致しない場合がある。

④　「何らかの症状があった児」とは、「呼吸器症状」、「食物アレルギー症状」、「アトピー性皮膚炎症状」「アレルギー性鼻炎症状」、「アレルギー性結膜炎症状」、「じんましん症状」のいずれかの症状があった児を指す。

⑤　④に示す症状は、全て保護者が判断したものであることから、これらの症状が医学的なアレルギー疾患の症状とは同義でないことに注意する必要がある。

⑥　報告書の取りまとめに当たり、表現を整理するため、調査票や回答として記載されたものと報告書の記載においては、一部異なるものがある。

⑦　本調査におけるり患状況に関する設問は、以下の疫学用語と同義とする。

用語	解説	本調査における調査内容
生涯有病率・生涯有症率	生涯の少なくとも一時点で、ある疾患（または症状）を有していた人の曝露人口比。	「これまで（調査時まで）に診断された児」 「これまで（調査時まで）に症状があった児」
期間有病率・期間有症率	特定の期間のいずれかの時点で、ある疾患（または症状）を有していた人の曝露人口比。１年の期間有病率は年間有病率である。	「この（直近）１年間に症状があった児」 （年間有症率と同義）
累積罹患率	ある期間内に発症した人の曝露人口比。生まれてからの累積罹患率は生涯有病率と同じになる。	「これまで（調査時まで）に診断された児」

出典：「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2017」から一部抜粋

Ⅱ　調査結果

Ⅱ　調査結果

1　対象者の概要

（1）対象者

調査回答者 2,727 人の居住地域は、「区部」が 1,936 人(71.0%)、「多摩地域」が 781 人(28.6%)、「島しょ地域」が 10 人(0.4%)であった(表 1)。

表１　居住地域

	令和元年度(2019年度)		調査対象者	回収率
	人数	%	人数	%
総数（N）	2,727	100.0	8,343	32.7
区部	1,936	71.0	5,702	34.0
多摩地域	781	28.6	2,612	29.9
島しょ地域	10	0.4	29	34.5

（参考）過去の調査結果

	平成11年度（1999年度）		*平成16年度（2004年度）*		*平成21年度（2009年度）*		*平成26年度（2014年度）*	
	人数	*%*	*人数*	*%*	*人数*	*%*	*人数*	*%*
総数（N）	*4,415*	*100.0*	*4,305*	*100.0*	*2,912*	*100.0*	*3,435*	*100.0*
区部	*2,752*	*62.3*	*2,782*	*64.6*	*1,804*	*62.0*	*2,275*	*66.2*
多摩地域	*1,653*	*37.4*	*1,492*	*34.7*	*1,086*	*37.3*	*1,153*	*33.6*
島しょ地域	*－*	*0.0*	*17*	*0.4*	*22*	*0.8*	*7*	*0.2*
無回答	*10*	*0.2*	*14*	*0.3*	*0*	*0.0*	*0*	*0.0*

対象児の性別は、「男子」が 1,396 人（51.2%）、「女子」が 1,302 人（47.7%）であった(表 2)。

表２　性別

	令和元年度(2019年度)	
	人数	%
総数（N）	2,727	100.0
男子	1,396	51.2
女子	1,302	47.7
無回答	29	1.1

（参考）過去の調査結果

	平成11年度（1999年度）		*平成16年度（2004年度）*		*平成21年度（2009年度）*		*平成26年度（2014年度）*	
	人数	*%*	*人数*	*%*	*人数*	*%*	*人数*	*%*
総数（N）	*4,415*	*100.0*	*4,305*	*100.0*	*2,912*	*100.0*	*3435*	*100.0*
男子	*2,256*	*51.1*	*2,233*	*51.9*	*1,500*	*51.5*	*1,615*	*47.0*
女子	*2,140*	*48.5*	*2,072*	*48.1*	*1,390*	*47.7*	*1,590*	*46.3*
無回答	*19*	*0.4*	*0*	*0*	*22*	*0.8*	*230*	*6.7*

（２）通所（園）状況

保育施設等の通所（園）状況について、通所（園）している児は、1,711 人(63.0%)であった。過去の調査結果からの推移をみると、通所（園）している割合が増加している（表 3）。

通所（園）している児のうち、通所（園）開始時期が 12 ヶ月未満である児は 780 人(45.6%)であった(表 4)。

また、通所（園）している児の通所（園）施設は、「認可保育所」が 1,264 人(73.9%)、「認証保育所」が 119 人(7.0%)、「幼稚園」が 108 人(6.3%)、「認定こども園」が 53 人(3.1%)であった(表 5)。

表３　通所（園）状況

	令和元年度(2019年度)		*平成26年度(2014年度)*		*平成21年度(2009年度)*		*平成16年度(2004年度)*	
	人数	%	*人数*	*%*	*人数*	*%*	*人数*	*%*
総数（N－無回答）	2,715	100.0	*3,225*	*100.0*	*2,903*	*100.0*	*4,180*	*100.0*
通所（園）している	1,711	63.0	*1,631*	*50.6*	*1,132*	*39.0*	*1,265*	*30.3*
通所（園）していない	1,004	37.0	*1,594*	*49.4*	*1,771*	*61.0*	*2,915*	*69.7*

表４　通所（園）開始年齢（月齢）

児の月齢	令和元年度(2019年度)		*平成26年度(2014年度)*	
	人数	%	*人数*	*%*
総数	1,711	100.0	*1,597*	*100.0*
0ヶ月～6ヶ月未満	43	2.5	*47*	*2.9*
6ヶ月～12ヶ月未満	737	43.1	*656*	*41.1*
12ヶ月～18ヶ月未満	118	6.9	*170*	*10.6*
18ヶ月～24ヶ月未満	488	28.5	*376*	*23.5*
24ヶ月～30ヶ月未満	47	2.7	*54*	*3.4*
30ヶ月～36ヶ月未満	223	13.0	*233*	*14.6*
36ヶ月～	55	3.2	*61*	*3.9*

表５　通所（園）施設の種別（児が通所（園）している施設）

	令和元年度(2019年度)		*平成26年度(2014年度)*	
	人数	%	*人数*	*%*
総数	1,711	100.0	*1,631*	*100.0*
認可保育所	1,264	73.9	*1,056*	*64.7*
認証保育所	119	7.0	*233*	*14.3*
幼稚園	108	6.3	*144*	*8.8*
認定こども園	53	3.1	*33*	*2.0*
上記以外の保育施設	104	6.1	*81*	*5.0*
その他（上記以外の施設）	38	2.2	*49*	*3.0*
無回答	25	1.5	*35*	*2.1*

2　アレルギー疾患の状況

（1）アレルギー疾患の症状　　≪問１≫　（資料編　表 6～7）

ア　症状の有無

これまでに何らかのアレルギーの症状があったとの回答の児は、1,523 人（56.2%）であり、そのうち、じんましん症状のみがあったとの回答の児を除くと、1,360 人(50.1%)であった(表 6)。平成 16 年度以降、半数以上の児が「何らかのアレルギーの症状あり」との回答となっている。

症状別にみると、「じんましん症状」557 人(20.6%)、「アトピー性皮膚炎症状」555 人(20.6%)、「アレルギー性鼻炎症状」542 人(20.1%)、「呼吸器症状」533 人(19.7%)、「食物アレルギー症状」482 人(17.8%)、「2 回以上の呼吸器症状」325 人(12.0%)の順で多かった(表 6)。

なお、本調査では、過去の調査で、2 回以上の呼吸器症状があった者を「呼吸器症状あり」としていたものと比較するため、「これまでに呼吸器症状があった」と回答した児及び問 3 で聴取した「2 回以上の呼吸器症状」があった児の数を併記した。

表６　これまでにアレルギー症状があった児

		令和元年度(2019年度)		*平成26年度(2014年度)*	
		人数	%	*人数*	*%*
呼吸器症状	(n=2,704)	533	19.7	*804*	*23.7*
（内数）2回以上の呼吸器症状		325	12.0	*490*	*14.4*
食物アレルギー症状	(n=2,702)	482	17.8	*717*	*21.0*
アトピー性皮膚炎症状	(n=2,699)	555	20.6	*666*	*19.6*
アレルギー性鼻炎症状	(n=2,698)	542	20.1	*705*	*20.8*
アレルギー性結膜炎症状	(n=2,699)	207	7.7	*281*	*8.3*
じんましん症状	(n=2,704)	557	20.6	*684*	*20.2*
その他のアレルギー症状		－	－	*87*	*2.6*
何らかのアレルギー症状あり	(n=2,712)	1,523	56.2	*1,894*	*55.3*
何らかのアレルギー症状あり（じんましん除く）	(n=2,712)	1,360	50.1	*1,710*	*49.9*

注 1）割合（%）については、各症状の無回答を除外して算出した。
　　何らかのアレルギー症状あり：全症状について無回答を除外して算出した。
注 2）令和元年度調査では「その他のアレルギー症状」については調査していない。
注 3）平成 26 年度調査結果の何らかのアレルギー疾患にはその他のアレルギー疾患も含まれる。

（参考）過去の調査結果

	これまでに症状あり					
	平成11年度(1999年度)		*平成16年度(2004年度)*		*平成21年度(2009年度)*	
	人数	*%*	*人数*	*%*	*人数*	*%*
呼吸器症状		－		－		－
（内数）2回以上の呼吸器症状	*391*	*9.5*	*818*	*19.4*	*529*	*18.3*
食物アレルギー症状	*409*	*9.4*	*657*	*15.6*	*619*	*21.6*
アトピー性皮膚炎症状	*775*	*18.0*	*831*	*20.5*	*641*	*23.0*
アレルギー性鼻炎症状	*326*	*7.5*	*581*	*14.6*	*548*	*19.8*
アレルギー性結膜炎	*222*	*5.1*	*270*	*6.9*	*211*	*7.8*
じんましん症状	*656*	*15.0*	*681*	*17.1*	*567*	*20.5*
その他のアレルギー症状	*159*	*3.7*	*144*	*3.8*	*174*	*6.2*
何らかのアレルギー症状あり	*1,849*	*41.9*	*2,215*	*51.5*	*1,655*	*56.8*

注）割合（%）については、各症状の無回答を除外して算出した。
　　何らかのアレルギー症状あり：全症状について無回答を除外して算出した。

イ　この１年間の症状

この１年間に症状があった児を症状別にみると、「アレルギー性鼻炎症状」488 人(18.1%)、「アトピー性皮膚炎症状」454 人(16.8%)、「じんましん症状」382 人(14.1%)、「呼吸器症状」361 人(13.4%)、「2 回以上の呼吸器症状」239 人(8.8%)、「食物アレルギー症状」223 人(8.2%)の順で多かった(表 7)。

表７　この１年間に症状があった児

		令和元年度(2019年度)		*平成26年度(2014年度)*	
		人数	%	*人数*	*%*
呼吸器症状	(n=2,704)	361	13.4	*560*	*16.4*
（内数）2回以上の呼吸器症状		239	8.8	*399*	*11.7*
食物アレルギー症状	(n=2,702)	223	8.2	*335*	*9.9*
アトピー性皮膚炎症状	(n=2,699)	454	16.8	*545*	*16.1*
アレルギー性鼻炎症状	(n=2,698)	488	18.1	*642*	*19.0*
アレルギー性結膜炎症状	(n=2,699)	177	6.5	*228*	*6.7*
じんましん症状	(n=2,704)	382	14.1	*434*	*12.8*
その他のアレルギー症状		－	－	*59*	*1.8*

注 1）割合（%）については、各症状の無回答を除外して算出した。

注 2）令和元年度調査では「その他のアレルギー疾患」については調査していない。

（２）アレルギー疾患の診断　　≪問 2≫　（資料編　表 8～15）

ア　診断の有無

これまでに何らかのアレルギー疾患と診断された児は、1,033 人(38.1%)であり、そのうち、じんましんを除く何らかのアレルギー疾患の診断された児は 872 人(32.1%)であった。

疾患別にみると、「食物アレルギー」403 人(14.9%)、「じんましん」339 人(12.6%)、「アトピー性皮膚炎」306 人(11.3%)、「アレルギー性鼻炎」231 人(8.6%)、「ぜん息」213 人(7.9%)の順で多かった。「食物アレルギー」は、平成 26 年度調査まで一貫して増加傾向であったが、今回は減少となった。　「ぜん息」と「食物アレルギー」の診断された児の割合は、平成 26 年度調査と比較すると有意に低下した(表 8)。

また「ぜん息(2 回以上の呼吸器症状)」、「アトピー性皮膚炎」、「アレルギー性結膜炎」は過去に実施した調査結果と比較すると最も割合が低かった（表 9）（図 1)。

表８　これまでにアレルギー疾患と診断された児

		令和元年度（2019年度）		平成26年度（2014年度）		χ^2検定
		人数	%	人数	%	
ぜん息	(n=2,705)	213	7.9	334	9.9	**
（再掲）2回以上の呼吸器症状		178	6.6	287	8.5	**
食物アレルギー	(n=2,708)	403	14.9	579	17.1	*
アトピー性皮膚炎	(n=2,704)	306	11.3	387	11.5	n.s.
アレルギー性鼻炎	(n=2,696)	231	8.6	306	9.1	n.s.
アレルギー性結膜炎	(n=2,287)	108	4.0	166	4.9	n.s.
じんましん	(n=2,693)	339	12.6	426	12.6	n.s.
その他のアレルギー疾患		－	－	46	1.4	－
何らかのアレルギー疾患あり	(n=2,714)	1,033	38.1	1,362	39.9	n.s.
何らかのアレルギー疾患あり（じんましん含まず）	(n=2,714)	872	32.1	1,187	34.7	*

注 1）χ^2検定　＊＊：p＜0.01　＊：p＜0.05（n.s.：not significant）

注 2）令和元年度調査では「その他のアレルギー疾患」については調査していない。

注 3）割合（%）については、各疾患の無回答を除外して算出した。

何らかのアレルギー疾患あり：全疾患について無回答を除外して算出した。

注 4）平成 26 年度調査結果の何らかのアレルギー疾患にはその他のアレルギー疾患も含まれる。

表９　これまでにアレルギー疾患と診断された児の数・割合の推移

	平成11年度（1999年度）		平成16年度（2004年度）		平成21年度（2009年度）		平成26年度（2014年度）		令和元年度（2019年度）	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ぜん息(2回以上の呼吸器症状あり)	329	7.5	536	12.7	264	9.3	287	8.5	178	6.6
食物アレルギー	348	7.9	357	8.5	411	14.4	579	17.1	403	14.9
アトピー性皮膚炎	728	16.6	650	16.0	437	15.8	378	11.5	306	11.3
アレルギー性鼻炎	279	6.4	399	10.0	300	11.1	306	9.1	231	8.6
アレルギー性結膜炎	216	4.9	203	5.1	129	4.8	166	4.9	108	4.0
じんましん	537	12.2	375	9.4	307	11.3	426	12.6	339	12.6
何らかのアレルギー疾患あり	1,623	36.8	1,640	38.2	1,131	38.8	1,362	39.9	1,033	38.1

注）割合（%）については、各疾患の無回答を除外して算出した。

何らかのアレルギー疾患あり：全疾患について無回答を除外して算出した。

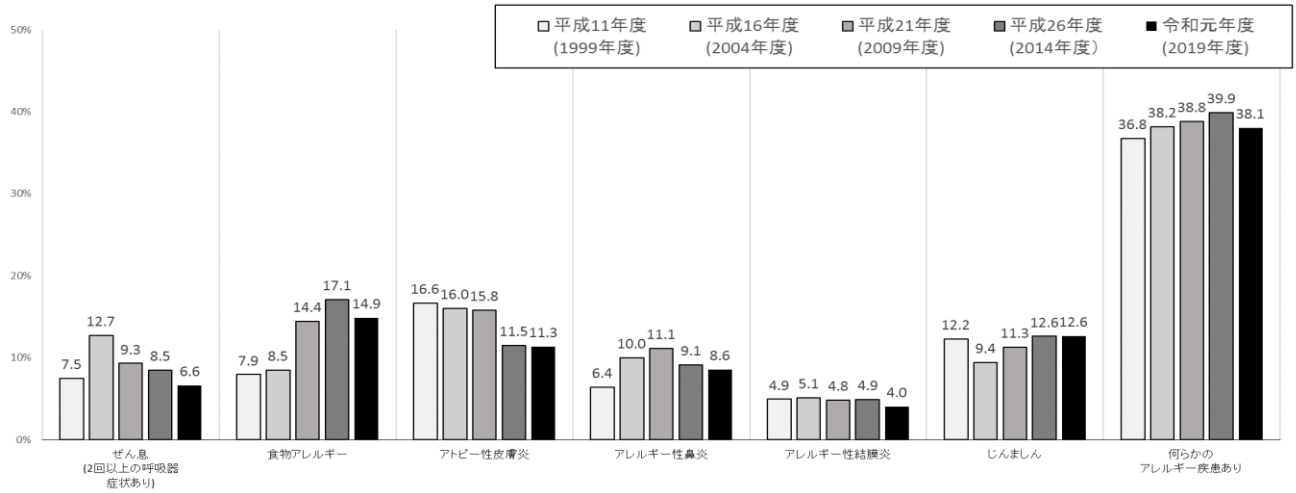


図１　各アレルギー疾患のり患状況の推移（これまでに診断された児）

注）割合（%）については、各疾患の無回答を除外して算出した。

何らかのアレルギー疾患あり：全疾患について無回答を除外して算出した。

（参考）過去の調査結果との比較（これまでに症状かつ診断ありの児で再計算）

	これまでに症状かつ診断あり									
	平成11年度（1999年度）		平成16年度（2004年度）		平成21年度（2009年）		平26年度（2014年度）		令和元年度（2019年度）	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ぜん息							331	9.9	195	7.2
（再掲）2回以上の呼吸器症状	327	7.9	432	10.5	264	9.3	287	8.5	167	6.2
食物アレルギー	308	7.1	357	8.5	411	14.4	563	16.7	386	14.3
アトピー性皮膚炎	718	16.6	618	15.3	437	15.8	376	11.2	303	11.2
アレルギー性鼻炎	264	6.1	365	9.2	300	11.1	301	9.0	224	8.3
アレルギー性結膜炎	200	4.6	177	4.5	129	4.8	159	4.8	100	3.7
じんましん	519	11.9	345	8.7	307	11.3	416	12.4	336	12.4
その他のアレルギー	132	3.1	85	2.2	123	4.6	42	1.3	－	－
何らかのアレルギー疾患あり	1,623	36.8	1,540	36.7	1,131	38.8	1,338	39.3	1,022	33.5

注 1）割合（%）については、各疾患の無回答を除外して算出した。

何らかのアレルギー疾患あり：全疾患について無回答だった者を除外して算出した。

注 2）平成 21 年度調査までは、「症状かつ診断あり」を「診断あり」と定義していたため、「症状かつ診断あり」で再計算し、参考掲載とした。

イ　通所（園）している児のアレルギー疾患の診断状況

通所(園)している児 1,711 人のうち、693 人(40.6%)が何らかのアレルギー疾患の診断を受けていた。

診断された疾患別にみると、「食物アレルギー」276 人(16.2%)、「じんましん」219 人(12.9)、「アトピー性皮膚炎」210 人(12.4%)、「アレルギー性鼻炎」153 人(9.0%)、「ぜん息」152 人(8.9%)の順で多かった(表 10)。

表１０　通所（園）している児のアレルギー疾患の診断状況

		令和元年度(2019年度)		*平成26年度(2014年度)*	
		総　数	通所（園）している	*総　数*	*通所（園）している*
ぜん息の診断あり	人数	213	152	*334*	*186*
	%	7.9	8.9	*9.9*	*11.5*
食物アレルギーの診断あり	人数	403	276	*579*	*292*
	%	14.9	16.2	*17.1*	*18.1*
アトピー性皮膚炎の診断あり	人数	306	210	*387*	*194*
	%	11.3	12.4	*11.5*	*12.1*
アレルギー性鼻炎の診断あり	人数	231	153	*306*	*146*
	%	8.6	9.0	*9.1*	*9.1*
アレルギー性結膜炎の診断あり	人数	108	70	*166*	*77*
	%	4.0	4.1	*4.9*	*4.8*
じんましんの診断あり	人数	339	219	*426*	*210*
	%	12.6	12.9	*12.6*	*13.1*
その他のアレルギー疾患の診断あり	人数	－	－	*46*	*24*
	%	－	－	*1.4*	*1.5*
何らかのアレルギー疾患の診断あり	人数	1,033	693	*1,362*	*680*
	%	38.1	40.6	*39.9*	*41.8*
何らかのアレルギー疾患の診断あり（じんましんを除く）	人数	872	594	*1,187*	*597*
	%	32.1	34.8	*34.7*	*36.7*

注 1）割合（%）については、各疾患の無回答を除外して算出した。

何らかのアレルギー疾患あり：全疾患について無回答だった者を除外して算出した

注 2）令和元年度調査では「その他のアレルギー疾患」については調査していない。

ウ　これまでに診断された児についてのアレルギー疾患の合併状況

これまでにアレルギー疾患の診断された児を対象に、他のアレルギー疾患との合併状況をみると、「アレルギー性結膜炎」と診断された児の中で「アレルギー性鼻炎」との合併の割合が 64 人（59.3%）と最も高かった。次いで「アトピー性皮膚炎」と診断された児の中で「食物アレルギー」との合併が 123 人（40.2%）、「じんましん」と診断された児の中で「食物アレルギー」との合併が 118 人（34.8%）の順で多かった(表 11)。

表１１　これまでに診断された児における各アレルギー疾患の合併状況（複数回答）

診断＼合併		ぜん息	食物アレルギー	アトピー性皮膚炎	アレルギー性鼻炎	アレルギー性結膜炎	じんましん
ぜん息(n=213)	人数		51	49	26	8	31
	%		23.9	23.0	12.2	3.8	14.6
食物アレルギー(n=403)	人数	51		123	62	28	118
	%	12.7		30.5	15.4	6.9	29.3
アトピー性皮膚炎(n=306)	人数	49	123		60	30	61
	%	16.0	40.2		19.6	9.8	19.9
アレルギー性鼻炎(n=231)	人数	26	62	60		64	51
	%	11.3	26.8	26.0		27.7	22.1
アレルギー性結膜炎(n=108)	人数	8	28	30	64		32
	%	7.4	25.9	27.8	59.3		29.6
じんましん(n=339)	人数	31	118	61	51	32	
	%	9.1	34.8	18.0	15.0	9.4	

エ　診断された年齢

これまでに診断された児について、診断された年齢（月齢）を疾患別にみると、「ぜん息」では「24ヶ月～30ヶ月未満」が最も多く44人(20.7%)であった。「食物アレルギー」では「6ヶ月～12ヶ月未満」が199人(49.4%)、「アトピー性皮膚炎」では「0ヶ月～6ヶ月未満」が78人(25.5%)、「アレルギー性鼻炎」では「24ヶ月～30ヶ月未満」が70人(30.3%)、「アレルギー性結膜炎」では「24ヶ月～30ヶ月未満」が35人(32.4%)、「じんましん」では「30ヶ月～36ヶ月未満」が82人(24.2%)で最も多かった。(表12)、(図2)。

表１２　疾患別の診断された年齢（月齢）

	児の年齢（月齢）	0ヶ月～6ヶ月未満	6ヶ月～12ヶ月未満	12ヶ月～18ヶ月未満	18ヶ月～24ヶ月未満	24ヶ月～30ヶ月未満	30ヶ月～36ヶ月未満	36ヶ月以上	総数
ぜん息	人数	18	25	43	37	44	34	12	213
	%	8.5	11.7	20.2	17.4	20.7	16.0	5.6	100.0
食物アレルギー	人数	43	199	88	21	25	19	8	403
	%	10.7	49.4	21.8	5.2	6.2	4.7	2.0	100.0
アトピー性皮膚炎	人数	78	60	56	25	54	27	6	306
	%	25.5	19.6	18.3	8.2	17.6	8.8	2.0	100.0
アレルギー性鼻炎	人数	26	11	41	19	70	50	14	231
	%	11.3	4.8	17.7	8.2	30.3	21.6	6.1	100.0
アレルギー性結膜炎	人数	10	3	11	10	35	31	8	108
	%	9.3	2.8	10.2	9.3	32.4	28.7	7.4	100.0
じんましん	人数	37	46	56	27	61	82	30	339
	%	10.9	13.6	16.5	8.0	18.0	24.2	8.8	100.0

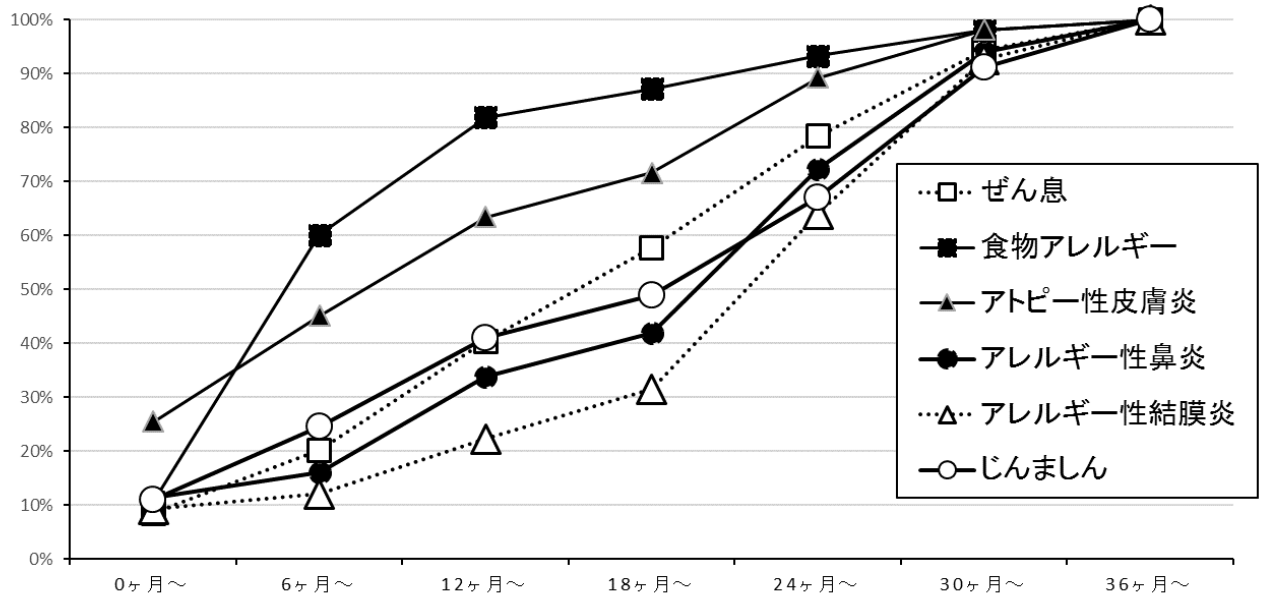


図２　疾患別の診断された年齢（月齢）（累積）

オ　診断までに受診を要した医療機関数

これまでに診断された児について、診断までにかかった医療機関数は、いずれの疾患も「１か所」と回答した児が最も多かった。疾患別にみると、アトピー性皮膚炎では、「1 か所」と回答したのは 61.9%と、最も低かった(表 13)、(図 3)。

表１３　診断までに受診を要した医療機関数（疾患別）

		1か所	2か所	3か所	4か所以上	総数
ぜん息	人数	124	45	13	6	188
	%	66.0	23.9	6.9	3.2	100.0
食物アレルギー	人数	262	84	13	2	361
	%	72.6	23.3	3.6	0.6	100.0
アトピー性皮膚炎	人数	153	69	19	6	247
	%	61.9	27.9	7.7	2.4	100.0
アレルギー性鼻炎	人数	143	33	5	4	185
	%	77.7	17.9	2.7	1.7	100.0
アレルギー性結膜炎	人数	72	12	1	1	86
	%	83.7	14.0	1.2	1.2	100.0
じんましん	人数	220	42	5	0	267
	%	82.4	15.7	1.9	0.0	100.0

注）割合（%）については、各疾患の無回答を除いて算出した。

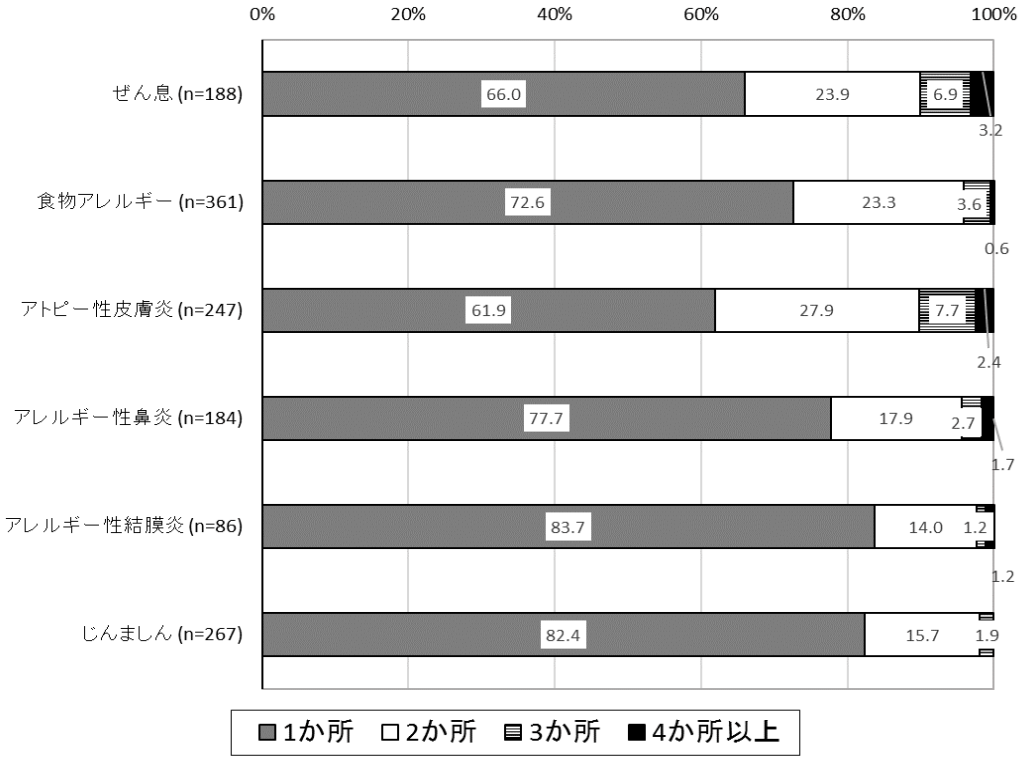


図３　診断までに受診を要した医療機関数(疾患別)

注）割合（%）については、各疾患の無回答を除いて算出した。

カ　現在の通院状況

これまでに診断された児のうち、現在通院中(または管理中)の児は、「アトピー性皮膚炎」が 205 人(67.0%)と最も多く、次いで「ぜん息」が 111 人(52.1%)であった(表 14)、(図 4)。

表１４　診断された児のうちの現在通院中（または管理中）の児の数・割合（疾患別）

		令和元年度(2019年度)	
		人数	%
ぜん息	(n=213)	111	52.1
食物アレルギー	(n=403)	156	38.7
アトピー性皮膚炎	(n=306)	205	67.0
アレルギー性鼻炎	(n=231)	76	32.9
アレルギー性結膜炎	(n=108)	27	25.0
じんましん	(n=339)	51	15.0

注）ｎ=診断された児の数

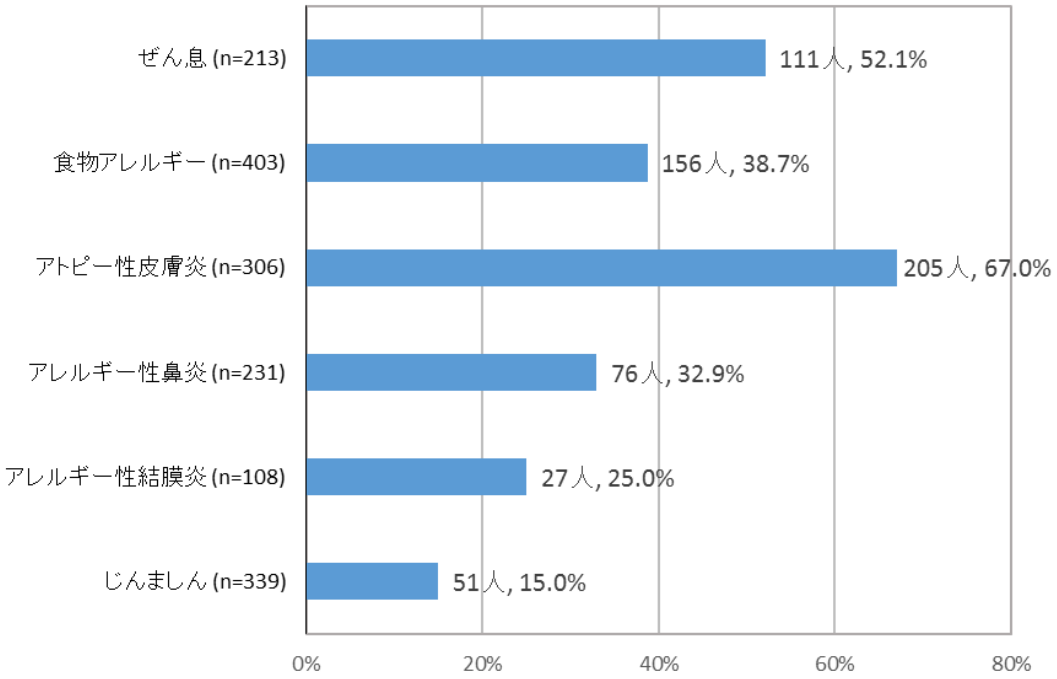


図４　診断された児のうちの現在通院中（または管理中）の児の数・割合（疾患別）

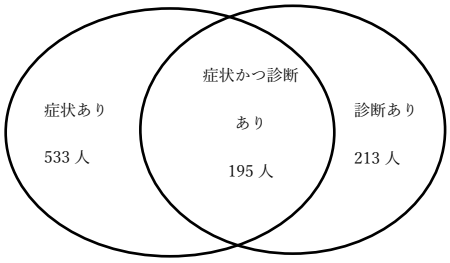
３　呼吸器の症状、ぜん息の診断と治療状況

（１）呼吸器の症状、呼吸器の症状が起きた年齢　　≪問 3≫　（資料編　表 16～18）

本調査では「ぜん息」「ぜん息性気管支炎」又は「小児ぜん息」を「ぜん息」として定義し集計した。

また、本調査での「呼吸器症状」とは、「セキこみ、息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」など苦しそうな症状」のことを言う。

「これまでに呼吸器症状があった」児は 533 人であり、「これまでにぜん息と診断された」児は 213 人、「これまでに呼吸器症状がある、または、ぜん息と診断された児」は 551 人、「これまでに呼吸器症状があり、かつ、ぜん息と診断された」児は 195 人であった。



「これまでに呼吸器症状あり、または、ぜん息と診断された」児 551 人のうち、これまでの 2 回以上の呼吸器症状の有無について、回答があったのは 436 人であり、そのうち２回以上の呼吸器症状があった児は 336 人(77.1%)であった(表 15)。

表１５　呼吸器の症状の有無

	令和元年度(2019年度)	
	人数	%
総数	436	100.0
2回以上の呼吸器症状あり	336	77.1
2回以上の呼吸器症状なし(全く出ていない、1回のみ)	100	22.9

注）「総数」については、「これまでに呼吸器症状ありまたはぜん息の診断あり」551 人から無回答 115 人を除く。

「これまでに呼吸器症状が 2 回以上あった」児 336 人のうち、初めて症状が起きた年齢（月齢）として最も多かったのは、「12 ヶ月～18 ヶ月未満」で 87 人(25.9%)であった。また、「これまでにぜん息された」児 213 人のうち、診断された時期として最も多かったのは、「24 ヶ月～30 ヶ月未満」で 44 人(20.7%)であった(表 16)、(図 5)。

表１６　ぜん息と診断された児の初めて呼吸器症状が起きた年齢と診断された年齢

児の年齢（月齢）	令和元年度(2019年度)			
	初めて症状が起きた年齢（n=336：2回以上の呼吸器症状あり）		診断された年齢（n=213：ぜん息の診断あり）	
	人数	%	人数	%
0ヶ月～6ヶ月未満	29	8.6	18	8.5
6ヶ月～12ヶ月未満	67	19.9	25	11.7
12ヶ月～18ヶ月未満	87	25.9	43	20.2
18ヶ月～24ヶ月未満	59	17.6	37	17.4
24ヶ月～30ヶ月未満	50	14.9	44	20.7
30ヶ月～36ヶ月未満	38	11.3	34	16.0
36ヶ月～	6	1.8	12	5.6

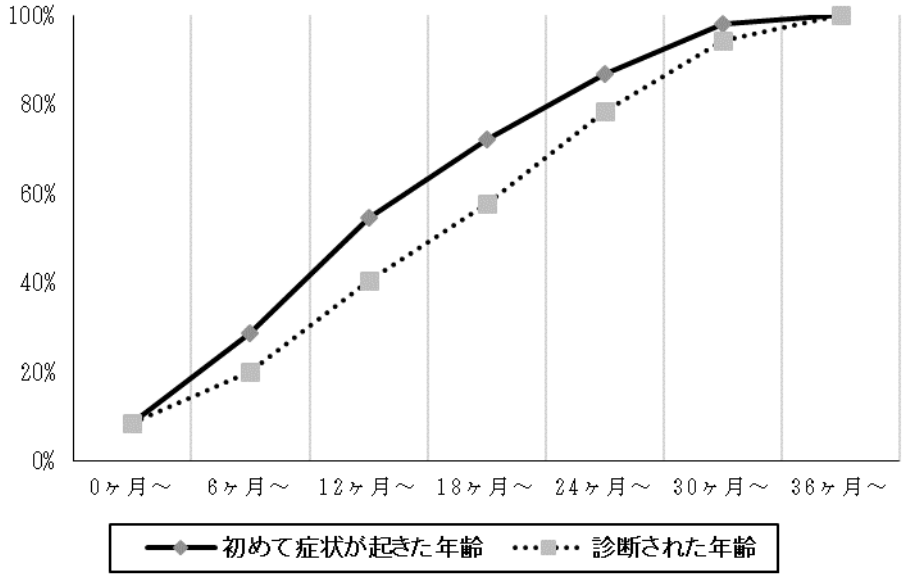


図５　ぜん息と診断された児の初めて症状が起きた年齢と診断された年齢の比較

（２）臨床症状に基づくぜん息の重症度分類　　≪問 4≫　（資料編　表 19）

「これまでにぜん息と診断された」児 213 人のうち、直近 1 年間に呼吸器症状が全くなかった児及び無回答 52 人を除く 161 人について、ぜん息の重症度分類に基づき 1 年間の状態を分類してみると、「間欠型」が 129 人（80.1%）と最も多く、次いで、「中等症持続型」が 14 人（8.7%）であった(表 17)。

表１７　臨床症状に基づくぜん息の重症度分類（直近１年間の状態）

	令和元年度（2019年度）		*平成26年度(2014年度)*	
	人数	%	*人数*	*%*
間欠型 （年に数回、季節的にあった）	129	80.1	*203*	*79.3*
軽症持続型 （月1回以上、週1回未満あった）	10	6.2	*23*	*9.0*
中等症持続型 （週1回以上あったが、毎日続くほどではな	14	8.7	*22*	*8.6*
重症持続型 （毎日あった）	6	3.7	*6*	*2.3*
最重症持続型 （治療を受けても毎日あり。しばしば夜間に時	2	1.2	*2*	*0.8*
合計	161	100.0	*256*	*100.0*

注 1）保護者が判断した症状の程度・頻度から重症度を分類

注 2）平成 26 年度から重症度分類を「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2017」における表記に変更したため、平成 16 年度、平成 21 年度調査の分類と表記が異なる。

（参考）過去の調査結果　（臨床症状に基づくぜん息の重症度分類）

	平成16年度(2004年度)		*平成21年度(2009年)*	
	人数	*%*	*人数*	*%*
間欠型	*266*	*74.3*	*364*	*78.4*
軽症持続型	*29*	*8.1*	*52*	*11.2*
中等症持続型	*30*	*8.4*	*31*	*6.7*
重症持続型１	*19*	*5.3*	*15*	*3.2*
重症持続型２	*14*	*3.9*	*2*	*0.4*
合計	*358*	*100.0*	*464*	*100.0*

（３）ぜん息で処方されている薬　　≪問 5≫　（資料編　表 20～22）

「これまでにぜん息と診断された」児 213 人のうち、医師から薬を処方されている児は 108 人（50.7%）であった(表 18)。

そのうち、処方されているぜん息の治療薬の種類は、「内服薬」が 96 人（88.9%）と最も多く、次いで「吸入薬（ステロイド）」が 31 人（28.7%）であった(表 19)。

処方されている薬の組み合わせは、「内服薬（1 種のみ）」が 44 人（40.7%）と最も多く、次いで「内服薬＋吸入薬(2 種のみ)」が 30 人（27.8%）であった(表 20)。

表１８　ぜん息と診断された児の処方薬の有無

	令和元年度(2019年度)	
	人数	%
総数	213	100.0
処方薬あり	108	50.7
処方薬なし	99	46.5
無回答	6	2.8

（参考）過去の調査結果

	平成21年度(2009年度)		*平成26年度(2014年度)*	
	人数	*%*	*人数*	*%*
総数	*264*	*100.0*	*334*	*100.0*
処方薬あり	*124*	*47.0*	*189*	*56.6*
処方薬なし	*140*	*53.0*	*120*	*35.9*
無回答	*0*	*0.0*	*25*	*7.5*

表１９　ぜん息と診断された児が処方されている薬（複数回答）

	令和元年度(2019年度)	
	人数	%
総数	108	－
内服薬	96	88.9
吸入薬（ステロイド）	31	28.7
吸入薬（その他）	13	12.0
吸入薬（不明）	8	7.4
貼り薬	27	25.0
その他	2	1.9

表２０　ぜん息と診断された児が処方されている薬の組み合わせ

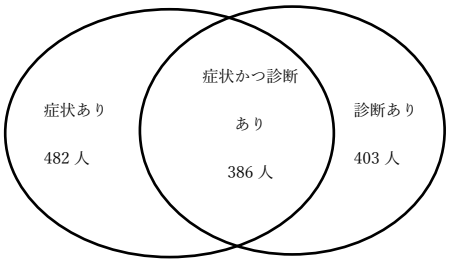
	令和元年度(2019年度)		*平成26年度(2014年度)*	
	人数	%	*人数*	*%*
総数	108	－	*189*	－
内服薬(1種のみ)	44	40.7	*74*	*39.4*
吸入薬(1種のみ)	6	5.6	*10*	*5.3*
はり薬(1種のみ)	3	2.8	*3*	*1.6*
内服薬+吸入薬（2種のみ)	30	27.8	*40*	*21.3*
内服薬+貼り薬（2種のみ)	12	11.1	*35*	*18.6*
吸入薬+貼り薬（2種のみ)	2	1.9	*2*	*1.1*
内服薬+吸入薬+貼り薬	9	8.3	*24*	*12.8*
その他	2	1.9	*1*	*0.5*

注)　「総数」は１種類以上の処方を受けた児の数。

４　食物アレルギーの症状、治療状況

（１）食物アレルギーの症状が起きた年齢　　≪問 6≫　（資料編　表 23～24）

「これまでに食物アレルギーの症状があった」児は 482 人であり、「これまでに食物アレルギーと診断された」児は 403 人、「これまでに食物アレルギーの症状がある、または食物アレルギーと診断された」児は 499 人、「これまでに食物アレルギーの症状がありかつ食物アレルギーの診断された」児は 386 人であった。



「これまでに食物アレルギーと診断された」児 403 人のうち、初めて症状が出た年齢は「6 ヶ月～12 ヶ月未満」が 231 人(57.3%)と最も多く、次いで「12 ヶ月～18 ヶ月未満」が 74 人(18.4%)であった。また、診断された年齢についても「6 ヶ月～12 ヶ月未満」が 199 人(49.4%)と最も多かった(表 21)、(図 6)。

表２１　食物アレルギーと診断された児の初めて症状が起きた年齢と診断された年齢

児の年齢（月齢）	令和元年度(2019年度)			
	初めて症状が起きた年齢 (n=403:診断を受けた児)		診断された年齢 (n=403:診断を受けた児)	
	人数	%	人数	%
0ヶ月～6ヶ月未満	37	9.2	43	10.7
6ヶ月～12ヶ月未満	231	57.3	199	49.4
12ヶ月～18ヶ月未満	74	18.4	88	21.8
18ヶ月～24ヶ月未満	23	5.7	21	5.2
24ヶ月～30ヶ月未満	22	5.5	25	6.2
30ヶ月～36ヶ月未満	11	2.7	19	4.7
36ヶ月～	5	1.2	8	2.0

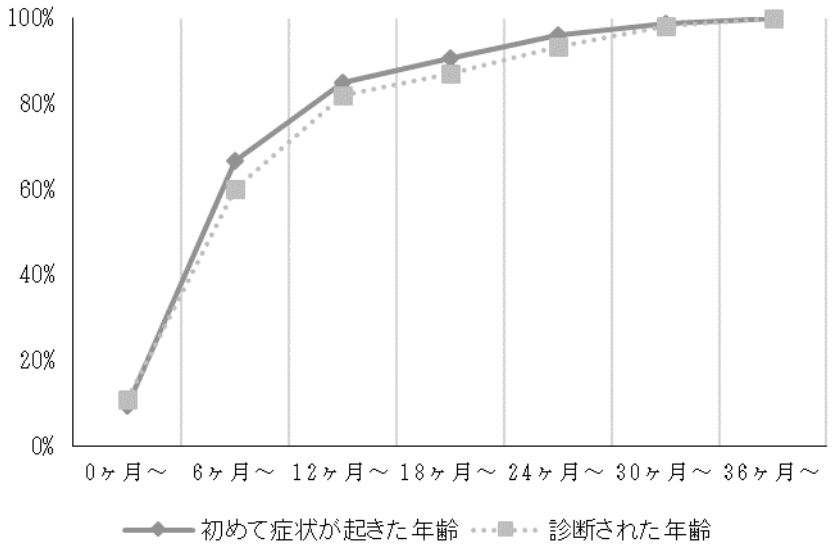


図６　食物アレルギーと診断された児の初めて症状が起きた年齢と診断された年齢の比較

（２）食物アレルギーで出現した症状　　≪問 7≫　（資料編　表 25～26）

「これまでに食物アレルギーと診断された」児から無回答を除いた 394 人のうち、「この１年間症状あり」と回答したのは 182 人(46.2%)で、前回 51.2%より 5.0 ポイント減少し、「この１年間症状なし」と回答したのは 212 人(53.8%)で、前回 48.8%より 5.0 ポイント増加した(表 22)。

表２２　食物アレルギーと診断された児における直近１年間の症状の有無

	令和元年度（2019年）		*平成26年度（2014年）*	
	人数	%	*人数*	*%*
総数（無回答を除く）	394	100.0	*543*	*100.0*
この1年症状あり	182	46.2	*278*	*51.2*
この1年症状なし	212	53.8	*265*	*48.8*

「これまでに食物アレルギーと診断された」児から無回答を除いた 394 人の、これまでに食物アレルギーで出現した症状をみると、「皮膚の症状」が 367 人(93.1%)と最も多く、次いで「目の症状」127 人(32.2%)、「消化器の症状」116 人(29.4%)、「口の症状」100 人(25.4%)であり、「ショック症状」は 48 人（12.2%）であった(表 23)。

表２３　食物アレルギーと診断された児についての出現した症状（複数回答）

	令和元年度(2019年度)		*平成26年度(2014年度)*	
	人数	%	*人数*	*%*
総数	394	－	*565*	－
皮膚の症状	367	93.1	*535*	*94.7*
目の症状	127	32.2	*171*	*30.3*
鼻の症状	42	10.7	*54*	*9.6*
口の症状	100	25.4	*129*	*22.8*
消化器の症状	116	29.4	*137*	*24.2*
呼吸器の症状	69	17.5	*85*	*15.0*
ショック症状	48	12.2	*59*	*10.4*
その他	15	3.8	*41*	*7.3*

注）「総数」は、診断された児から無回答を除く。

（参考）過去の調査結果（症状が出現した児の割合）

	平成16年度 (2004年度) *(n=357:診断を受けた児)*	*平成21年度 (2009年度)* *(n=411:診断を受けた児)*
	割合（%）	*割合（%）*
皮膚の湿疹	*91.6*	*92.9*
目のはれ	*16.8*	*25.1*
鼻水	*7.6*	*7.3*
口のはれ	*12.0*	*20.4*
腹痛	*15.1*	*17.3*
ぜん鳴・呼吸困難	*13.7*	*11.7*
ショック症状	*1.4*	*3.9*
その他	*1.4*	*1.9*

注）平成 26 年度調査から調査項目を変更している。

（３）食物アレルギーの原因食物　　≪問８≫　（資料編　表 27）

「これまでに食物アレルギーと診断された」児から無回答を除いた 400 人の、食物アレルギーの症状が出現した原因（と思われる）食物をみると、「鶏卵」296 人（74.0%）、「牛乳」114 人（28.5%）、「小麦」55 人（13.8%）、「クルミ」24 人（6.0%）、「落花生」21 人（5.3%）であった（表 24）。前回調査に比べ、クルミが 2.1 ポイント上昇した。

「その他」には、乳製品(11 人)、卵製品(7 人)、トマト(5 人)、魚卵(3 人)、アーモンド(3 人)、栗(2 人)、パイナップル(2 人)、スイカ(2 人)等があった。

表２４　食物アレルギーと診断された児のアレルギーの原因（と思われる）食物（複数回答）

順位	原因食物	令和元年度（2019年度）		*平成26年度（2014年度）*	*平成21年度（2009年度）*	*平成16年度（2004年度）*
		人数	%	*%*	*%*	*%*
	総数	400	－	－	－	－
1	鶏卵	296	74.0	*81.0*	*83.9*	*83.8*
2	牛乳	114	28.5	*33.3*	*36.3*	*35.0*
3	小麦	55	13.8	*14.6*	*12.9*	*11.5*
4	クルミ	24	6.0	*3.9*	*2.2*	*2.2*
5	落花生	21	5.3	*3.9*	*8.5*	*10.9*
6	いくら	17	4.3	*9.2*	*6.6*	*7.6*
7	キウイフルーツ	16	4.0	*6.2*	*3.4*	*2.5*
8	カシューナッツ	11	2.8	*2.8*	－	－
9	えび	10	2.5	*5.1*	*7.3*	*6.7*
10	大豆	9	2.3	*6.3*	*7.8*	*10.6*
11	バナナ	9	2.3	*3.0*	*3.2*	*2.0*
12	ゴマ	8	2.0	*4.4*	*3.9*	*0.0*
13	やまいも	6	1.5	*3.0*	*5.1*	*3.9*
14	かに	5	1.3	*2.5*	*4.6*	*4.5*
15	さけ	5	1.3	*2.1*	*3.4*	*1.7*
16	さば	5	1.3	*4.4*	*5.4*	*4.2*
17	りんご	4	1.0	*0.7*	*1.2*	*0.3*
18	そば	3	0.8	*2.8*	*4.6*	*5.6*
19	いか	1	0.3	*0.2*	*2.2*	*2.8*
20	オレンジ	1	0.3	*0.4*	*0.5*	*0.6*
21	牛肉	1	0.3	*1.4*	*2.2*	*3.1*
22	あわび	0	0.0	*0.2*	*0.7*	*0.6*
23	ゼラチン	0	0.0	*0.5*	*1.0*	*2.0*
24	鶏肉	0	0.0	*1.6*	*4.4*	*5.6*
25	豚肉	0	0.0	*0.9*	*0.7*	*2.0*
26	まつたけ	0	0.0	*0.0*	*0.2*	*0.3*
27	もも	0	0.0	*0.7*	*0.2*	*0.8*
	その他	43	10.8	*13.1*	*14.8*	*19.3*
	原因となる食物は分からない	2	0.5	－	－	－

注 1）カシューナッツについては平成 21 年度、平成 16 年度は調査未実施

注 2）これまでに診断された児のうち、無回答を除いて算出した。

注 3）平成 16 年度と平成 21 年度の対象は、症状かつ診断ありの児

（４）アレルギー食物経口負荷試験※の実施状況　　≪問 9≫　（資料編　表 28～29）

※　食物経口負荷試験：アレルギー疾患が確定しているか、もしくは疑われる食品を摂取させ、誘発症状の有無を確認する検査

「これまでに食物アレルギーと診断された」児から無回答を除いた 396 人のうち、食物経口負荷試験を実施したことが「あり」と回答したのは 124 人（31.3%）であった(表 25)。

また、試験を実施した回数は「1 回」が最も多く 55 人(44.4%)、次いで「2 回」16 人(12.9%)、「3 回」12 人(9.7%)の順であった(表 26)。

表２５　食物アレルギーと診断された児の食物経口負荷試験実施の有無

	令和元年度(2019年度)	
	人数	%
総数(無回答7人を除く)	396	100.0
食物経口負荷試験の実施あり	124	31.3
食物経口負荷試験の実施なし	272	68.7

(参考) 過去の調査結果（診断された児のうち食物経口負荷試験の実施の有無)

	平成26年度(2014年度)	
	人数	*%*
総数(無回答31人を除く)	*548*	*100.0*
食物経口負荷試験あり	*158*	*28.8*
食物経口負荷試験なし	*390*	*71.2*

表２６　食物経口負荷試験の実施回数

	令和元年度(2019年度)	
	人数	%
総数	124	100.0
1回	55	44.4
2回	16	12.9
3回	12	9.7
4回	4	3.2
5回	3	2.4
6回以上	8	6.5
無回答	26	21.0

注）6 回以上の内訳：6 回(1 人)、7 回(2 人)、10 回(1 人)、20 回(2 人)、31 回(1 人)、40 回(1 人)

（５）食物アレルギーに対する原因食物の制限または除去の状況

ア　医師の指示による制限または除去の状況　≪問 10、問 11、問 18≫（資料編　表 30、表 31）

「これまでに食物アレルギーと診断された」児から無回答を除いた 393 人のうち、現在医師の指示で「制限や除去をしている」のは 191 人(48.6%)であった(表 27)。

表２７　医師の指示による食物アレルギー原因食物の制限または除去の状況

	令和元年度(2019年度)	
	人数	%
総数（無回答10人を除く）	393	100.0
医師の指示による制限や除去をしている	191	48.6
医師の指示による制限や除去をしていない	202	51.4

イ　自主的な制限または除去の状況　　≪問 11≫　（資料編　表 32、表 33）

「これまでに食物アレルギーと診断された」児から無回答を除いた 388 人のうち、自主的（医師の診断とは別）に食物アレルギーの原因（と思われる）食物を「制限や除去をしている」児は 117 人(30.2%)であった(表 28)。

表２８　食物アレルギーの原因（と思われる）食物の自主的な制限または除去の状況

	令和元年度(2019年度)	
	人数	%
総数(無回答15人を除く)	388	100.0
自主的に制限や除去をしている	117	30.2
自主的に制限や除去をしていない	271	69.8

ウ　制限または除去している食物　　≪問 10・問 11≫　（資料編　表 31、表 33）

「これまでに食物アレルギーと診断された」児 403 人のうち、食物アレルギーの原因（と思われる）食物を制限または除去している状況について、医師の指示と自主的（医師の診断とは別）に行っている食物種を比較した。

医師の指示で除去している 191 人のうち、除去している食物は、鶏卵が 111 人（58.1%）と最も高く、次いで牛乳が 42 人（22.0%）であった。自主的に制限または除去している 117 人のうち、除去している食物は鶏卵が 41 人（35.0%）と最も高く、次いでそばが 25 人（21.4%）であった。

また、そば、いくら、落花生、やまいも、あわび、かに、いか等は医師の指示で制限または除去している割合よりも、自主的に除去している割合が高かった（図 7）。

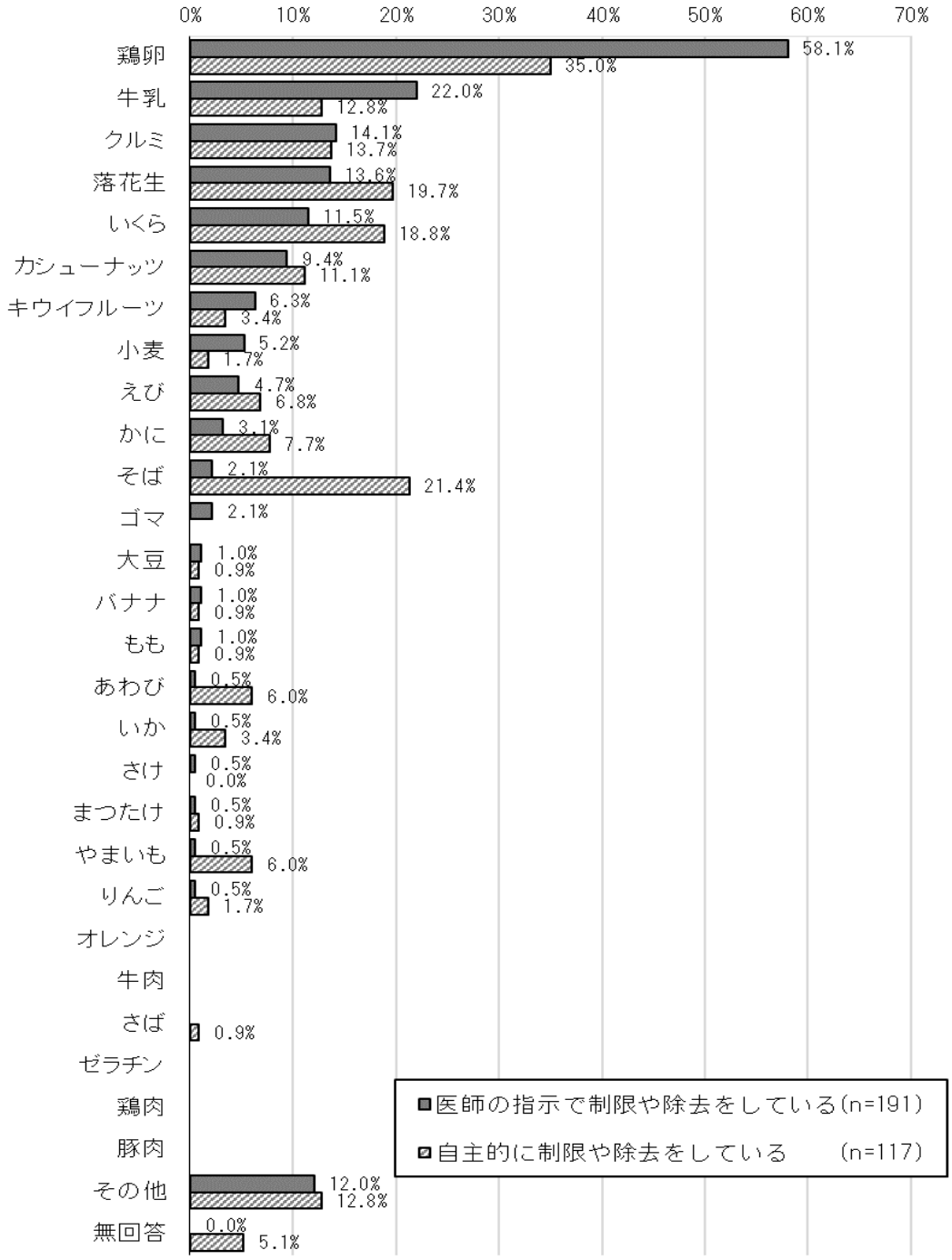


図７　制限または除去している食物

エ　未摂取の食物　　≪問 18≫　（資料編　表 46）

調査回答者から無回答を除いた 2,680 人のうち、アレルギーの有無とは関係なく、これまでに一度も食べたことがない食品は、「あわび」が最も多く 2,309 人（86.2%）、次いで「まつたけ」1,922 人（71.7%）、「カシューナッツ」1,400 人（52.2%）であった(図 8)。

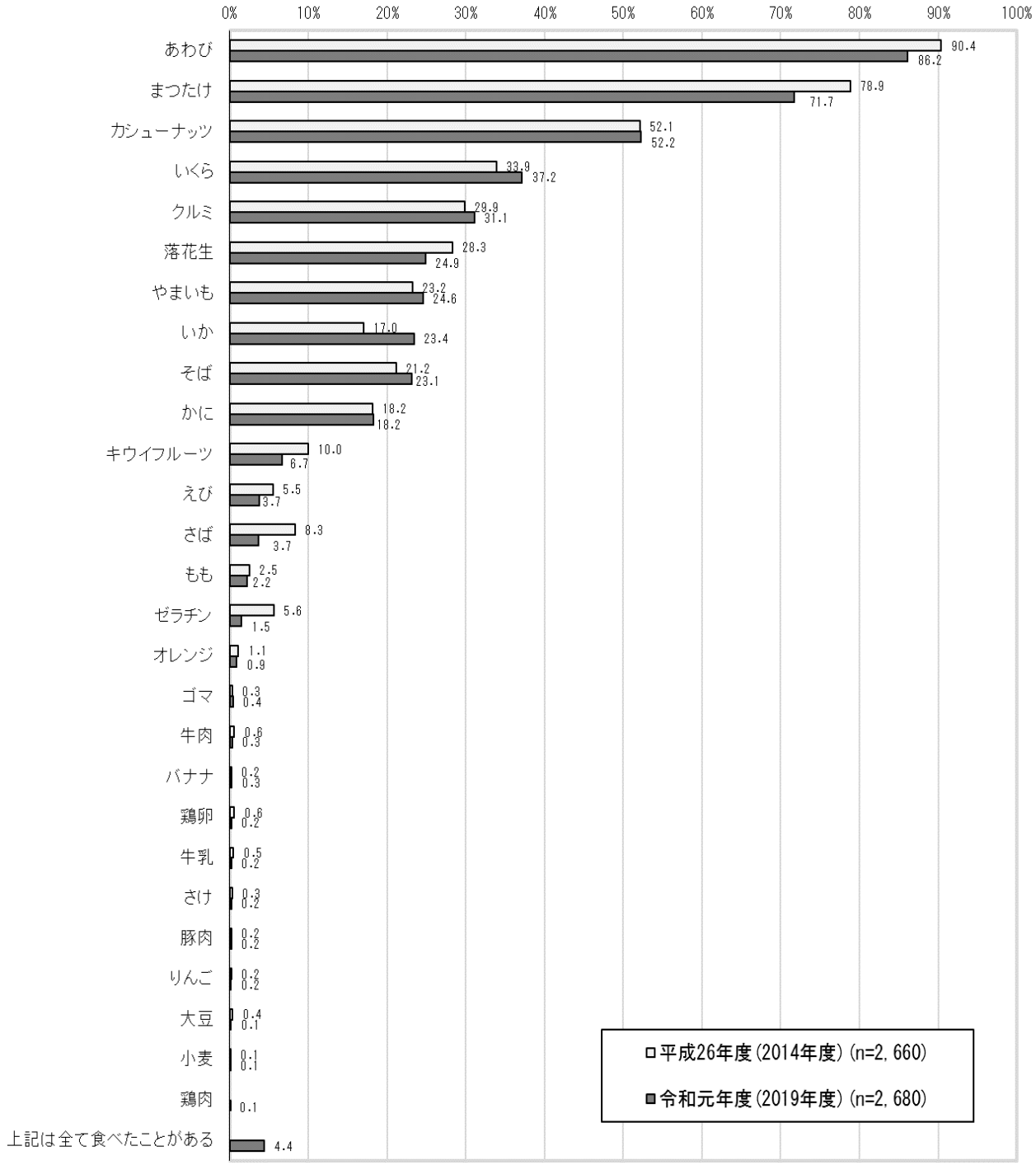


図８　未摂取の食物（複数回答）

注）無回答を除いて算出した。

（6） 食物アレルギーによるショック症状及び誤食の状況

ア ショック症状※の有無 ≪問 12≫ （資料編 表 34、表 35）

※ショック症状：意識がない、意識もうろう、ぐったり、尿や便を漏らす、脈が触れにくい、唇やつめが青白い等

「これまでに食物アレルギーと診断された」児から無回答を除いた 397 人のうち、これまでにショック症状を起こしたことがあると回答したのは 38 人（9.6%）で、そのうちショック症状を起こした回数は「1 回」が 31 人（81.6%）、「2 回」が 6 人（15.8%）であった(表 29)。

表２９ 食物アレルギーと診断された児のショック症状発現の有無

	令和元年度(2019年度)	
	人数	%
総数(無回答6人を除く)	397	100.0
ショック症状あり	38	9.6
（回数）1回	31	81.6
2回	6	15.8
3回	1	2.6
ショック症状なし	359	90.4

(参考）過去の調査結果（これまでに診断された児のうち、この１年間のショック症状の有無）

	平成26年度(2014年度)	
	人数	*%*
総数(無回答29人を除く)	*550*	*100.0*
ショック症状あり	*22*	*4.0*
（回数）1回	*18*	*81.8*
2回	*3*	*13.6*
無回答	*1*	*4.5*
ショック症状なし	*528*	*96.0*

イ アドレナリン自己注射（エピペン®）処方の有無 ≪問 13≫ （資料編 表 36、表 37）

「これまでに食物アレルギーと診断された児」から無回答を除いた 397 人のうち、アドレナリン自己注射薬（エピペン®）を「処方されている」と回答したのは 12 人(3.0%)であった(表 30)。

表３０ 食物アレルギーと診断された児のアドレナリン自己注射（エピペン®）処方の有無

	令和元年度(2019年度)		*平成26年度(2014年度)*	
	人数	%	*人数*	*%*
総数(無回答を除く)	394	100.0	*547*	*100.0*
アドレナリン自己注射(エピペン®)処方あり	12	3.0	*26*	*4.8*
アドレナリン自己注射(エピペン®)処方なし	382	97.0	*521*	*95.2*

ウ　誤食の有無と発生場所　　≪問 14≫　（資料編　表 38～表 39）

「これまでに食物アレルギーと診断された」児から無回答を除いた 397 人のうち、これまでに誤食で症状が出たことが「あり」と回答したのは 87 人（21.9%）であった（表 31）。誤食の起こった場所は「自宅」が 60 人(69.0%)と最も多く、次いで「飲食店等の外食先」28 人(32.2%)、「親戚・知人宅」16 人(18.4%)、「保育施設等」9 人(10.3)%であった(表 32)。

表３１　食物アレルギーと診断された児の誤食経験の有無

	令和元年度(2019年度)	
	人数	%
総数(無回答6人を除く)	397	100.0
誤食あり	87	21.9
誤食なし	310	78.1

（参考）過去の調査結果

	平成26年度(2014年度)	
	人数	*%*
総数(無回答15人を除く)	*564*	*100.0*
誤食あり	*142*	*25.2*
誤食なし	*422*	*74.8*

表３２　誤食の起こった場所（複数回答）

	令和元年度(2019年度)		*平成26年度(2014年度)*	
	人数	%	*人数*	*%*
総数(誤食あり)	87	－	*142.0*	－
自宅	60	69.0	*98.0*	*69.0*
保育施設等	9	10.3	*10.0*	*7.0*
親戚・知人宅	16	18.4	*32.0*	*22.5*
飲食店等の外食先	28	32.2	*48.0*	*33.8*
その他の場所	3	3.4	*8.0*	*5.6*

エ　誤食の起こった理由　　≪問 14≫　（資料編　表 40～表 41）

「これまでに食物アレルギーと診断された」児 403 人のうち、これまでに誤食で症状が出たことのある 87 人の誤食の場所と原因を調査したところ、「自宅」及び「飲食店等の外食先」では、「他人の食品を食べるか触れるかした」や「原因食材の未確認」が原因行動として多く、「保育施設等」では「誤って配膳された」が最も多かった(表 33)。

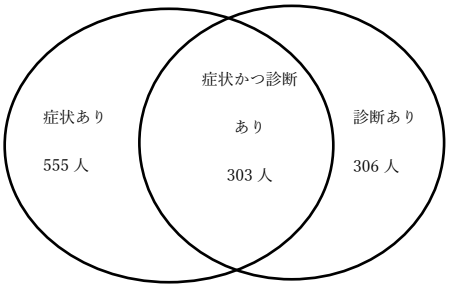
表 ３３　誤食の起こった原因（発生場所別）（複数回答）

原因＼場所	自宅		保育施設等		親戚・知人宅		飲食店等の外食先		その他	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
調理段階で原因食材が混入した	12	20.0	0	0.0	3	18.8	0	0.0	0	0.0
誤って配膳された	0	0.0	5	55.6	3	18.8	1	3.6	0	0.0
他の人の食品を食べるか触れるかした	22	36.7	2	22.2	2	12.5	7	25.0	1	33.3
原因食材が明記されていなかった	6	10.0	0	0.0	0	0.0	3	10.7	0	0.0
原因食材の未確認	22	36.7	2	22.2	4	25.0	11	39.3	1	33.3
アレルギー情報が適切に伝えられなかった	3	5.0	0	0.0	1	6.3	2	7.1	1	33.3
アレルギー情報が共有されていなかった	2	3.3	0	0.0	4	25.0	1	3.6	0	0.0
その他	9	15.0	0	0.0	1	6.3	6	21.4	1	33.3
無回答	1	1.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
総数	60	－	9	－	16	－	28	－	3	－

５　アトピー性皮膚炎の症状と治療

（１）アトピー性皮膚炎の症状が起きた年齢　≪問 15≫　（資料編　表 42～表 43）

「これまでにアトピー性皮膚炎の症状があった」児は 555 人であり、「これまでにアトピー性皮膚炎と診断された」児は 306 人、「これまでにアトピー性皮膚炎の症状がある、またはアトピー性皮膚炎と診断された」児は 558 人、「これまでにアトピー性皮膚炎の症状があり、かつアトピー性皮膚炎と診断された」児は 303 人であった。



「これまでにアトピー性皮膚炎と診断された」児 306 人における、初めて症状が出た年齢及び診断された年齢をみると、ともに「0 ヶ月～6 ヶ月未満」が最も多かった（表 34）、（図 9）。

表３４　アトピー性皮膚炎と診断された児の初めての症状が起きた年齢と診断された年齢

児の年齢（月齢）	令和元年度(2019年度)			
	初めて症状が起きた年齢 (n=306:診断児された児)		診断を受けた年齢 (n=306:診断された児)	
	人数	%	人数	%
0ヶ月～6ヶ月未満	96	31.4	78	25.5
6ヶ月～12ヶ月未満	69	22.5	60	19.6
12ヶ月～18ヶ月未満	41	13.4	56	18.3
18ヶ月～24ヶ月未満	26	8.5	25	8.2
24ヶ月～30ヶ月未満	48	15.7	54	17.6
30ヶ月～36ヶ月未満	21	6.9	27	8.8
36ヶ月～	5	1.6	6	2.0

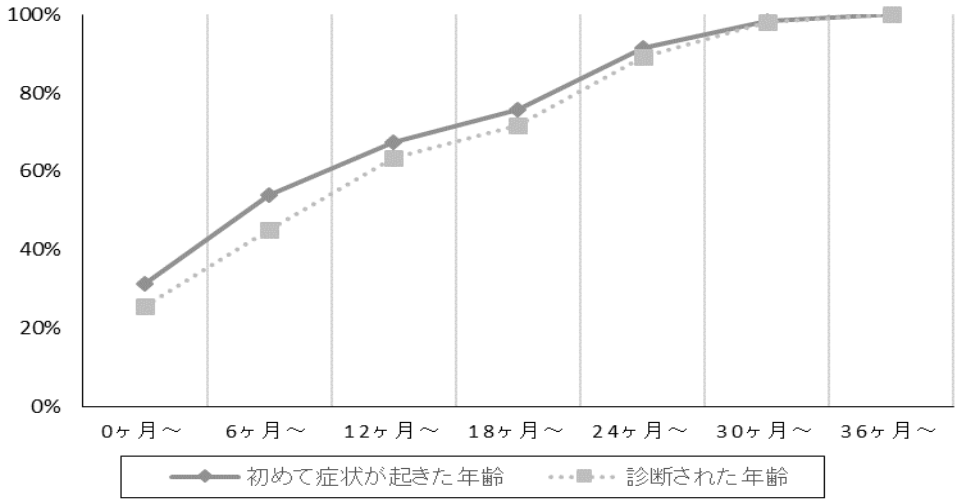


図９　アトピー性皮膚炎と診断された児の初めて症状が起きた年齢と診断された年齢の比較

（２）アトピー性皮膚炎の治療の内容　　≪問 16≫　（資料編　表 44）

「これまでにアトピー性皮膚炎と診断された」児から無回答を除いた 273 人の、現在受けている治療内容は「薬物療法」が 260 人(95.2%)と最も多く、次いで「スキンケアの指導」が 147 人(53.8%)であった。

また、「薬物療法」を受けている 260 人の治療内容は「ステロイド外用薬」が 240 人（92.3%）と最も多く、次いで「ステロイド以外の外用薬」112 人（43.1%）であった。ステロイド内服薬については、15 人（5.8%）と最も低かった(表 35)。

表３５　アトピー性皮膚炎と診断された児の治療内容（複数回答）

	令和元年度(2019年度)	
	人数	%
総数(無回答を33人を除く)	273	－
スキンケアの指導	147	53.8
薬物療法	260	95.2
ステロイド外用薬	240	92.3
ステロイド内服薬	15	5.8
ステロイド以外の外用薬	112	43.1
ステロイド以外の内服薬	27	10.4
その他	13	4.8

（３）ステロイド外用薬による治療に対する考え　　≪問 17≫　（資料編　表 45）

「これまでにアトピー性皮膚炎と診断された」児から無回答を除いた 298 人のうち、ステロイド外用薬（塗り薬）治療についての保護者の考えとして最も多かった回答は、「できれば使いたくないが、必要であれば使う」が 174 人(58.4%)と最も多く、次いで「使う」が 122 人(40.9)%であった(表 36)。

表３６　アトピー性皮膚炎と診断された児の保護者のステロイド外用薬治療に対する考え

	令和元年度(2019年度)	
	人数	%
総数(無回答8人を除く)	298	100.0
使う	122	40.9
できれば使いたくないが、必要であれば使う	174	58.4
必要であっても使わない	1	0.3
その他	1	0.3

６　スキンケアについて

（１）沐（もく）浴以外の子供のスキンケアの方法について

≪問 19、問 20≫（資料編　表 47、表 48）

調査回答者 2,727 人のうち、沐浴以外の子供のスキンケアの方法について、知る機会のあった人は 2,269 人(83.2%)であった(表 37)。

表３７　沐浴以外のスキンケアについて知る機会の有無

	令和元年度(2019年度)	
	人数	%
総数	2,727	100.0
知る機会あり	2,269	83.2
知る機会なし	418	15.3
無回答	40	1.5

スキンケアの方法について知る機会のあった人 2,269 人の、具体的な知る機会は「医療機関」においてが 1,233 人(54.3%)と最も多く、次いで「出産した医療機関・産院等」においてが 1,111 人(49.0%)、「インターネット」が 789 人(34.8%)であった(表 38)。

表３８　沐浴以外のスキンケアについて知る機会（複数回答）

	令和元年度(2019年度)	
	人数	%
総数（スキンケアを知る機会あり）	2,269	－
出産した医療機関・産院等	1,111	49.0
医療機関	1,233	54.3
新生児訪問	215	9.5
保健所・保健センター	359	15.8
育児雑誌	678	29.9
インターネット	789	34.8
友人・知人	428	18.9
親族	315	13.9
その他	124	5.5
無回答	5	0.2

（２）現在行っているスキンケアの方法について　　≪問 20≫　（資料編　表 49～表 51）

調査回答者 2,727 人のうち、体の洗い方については、「主に手のみで洗う」が 2,218 人(81.3%)と最も多かった（図 10）。

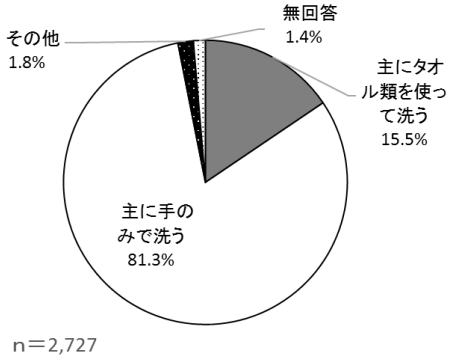


図１０　体の洗い方について

調査回答者 2,727 人のうち、石鹸等の使用や使い方については、「石鹸等を使い、よく泡立てて洗う」が 2,077 人(76.2%)と最も多かった（図 11)。

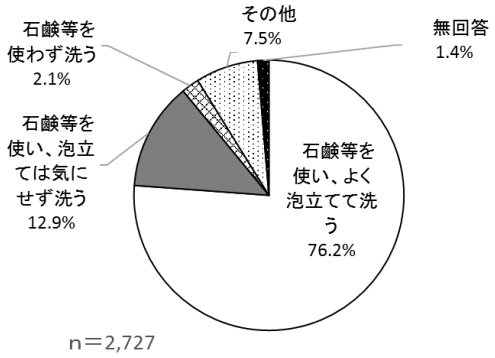


図１１　石鹸等の使用や使い方について

調査回答者 2,727 人のうち、保湿剤の使用については、「季節や皮膚の状況などによって保湿剤を使う」が 1,250 人(45.8%)と最も多く、次いで「年間を通して保湿剤を使う」が 1,234 人(45.3%)と多かった（図 12)。

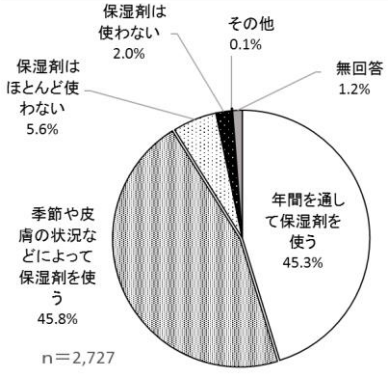


図１２　保湿剤の使用について

７　アレルギー等に関する情報について

（１）アレルギーに関する情報の入手方法　　≪問 21≫　（資料編　表 52～53）

調査回答者 2,727 人のうち、いずれかの方法でアレルギーに関する情報を入手した経験があると回答したのは 2,425 人(88.9%)であった（表 39）。

入手方法は、「医療機関」が 1,966 人(81.1%)と最も多く、次いで「友人・知人」868 人(35.8%)、「ホームページ（その他）」759 人(31.3%)、「育児雑誌」601 人(24.8%)であった(表 40)。

表３９　アレルギーに関する情報の入手状況（アレルギーの診断・症状の有無別）

	回答数	%	診断・症状の有無（再掲）						
			何らかのアレルギーの診断あり		何らかのアレルギーの症状のみあり		アレルギーの診断及び症状なし		アレルギーの症状・診断無回答
			人数	%	人数	%	人数	%	人数
総数	2,727	100.0	1,033	100.0	496	100.0	1,174	100.0	24
入手したことあり	2,425	88.9	965	93.4	440	88.7	1,001	85.3	19
特に得ていない	226	8.3	33	3.2	40	8.1	151	12.9	2
無回答	76	2.8	35	3.4	16	3.2	22	1.9	3

表４０　アレルギーに関する情報の入手方法（アレルギーの診断・症状の有無別）（複数回答）

	回答数	%	診断・症状の有無（再掲）						
			何らかのアレルギーの診断あり		何らかのアレルギーの症状のみあり		アレルギーの診断及び症状なし		アレルギーの症状・診断無回答
			人数	%	人数	%	人数	%	人数
総数（入手したことあり）	2,425	－	965	－	440	－	1,001	－	19
医療機関	1,966	81.1	855	88.6	309	70.2	738	73.7	64
友人・知人	868	35.8	318	33.0	153	34.8	389	38.9	8
ホームページ（その他）	759	31.3	317	32.8	132	30.0	306	30.6	4
育児雑誌	601	24.8	214	22.2	117	26.6	264	26.4	6
テレビ	581	24.0	199	20.6	115	26.1	266	26.6	1
保健所・保健センター	573	23.6	194	20.1	84	19.1	273	27.3	22
親族	416	17.2	146	15.1	88	20.0	181	18.1	1
公的機関のパンフレット	400	16.5	137	14.2	63	14.3	190	19.0	10
書籍	272	11.2	112	11.6	48	10.9	110	11.0	2
ホームページ（専門の学会）	157	6.5	69	7.2	32	7.3	55	5.5	1
ホームページ（東京都アレルギー情報navi.）	124	5.1	43	4.5	21	4.8	58	5.8	2
講演会や公開講座	77	3.2	39	4.0	9	2.0	29	2.9	0
その他	102	4.2	42	4.4	20	4.5	40	4.0	0

参考）過去の調査結果　平成 26 年度（2014 年度）

アレルギーに関する情報の入手状況

	人数	%
総数	3,435	100.0
入手したことあり	2,688	78.3
入手したことなし	650	18.9
無回答	97	2.8

アレルギーに関する情報の入手方法（複数回答）

	人数	%
総数(入手したことあり)	2,688	－
主治医	1,600	59.5
テレビや新聞などのマスメディア	1,443	53.7
本や雑誌	1,415	52.6
保健所・保健センター（健診会場など）	1,035	38.5
ホームページ（日本アレルギー協会、日本小児アレルギー学会、食物アレルギー研究会、環境再生保全機構、行政機関、専門病院）	851	31.7
パンフレット	761	28.3
ブログ	285	10.6
その他のホームページ	258	9.6
自治体が主催する講演会や公開講座など	88	3.3
患者会の催し	8	0.3
その他	171	6.4

（２）アレルギー情報の提供に関する希望　　≪問 22≫　（資料編　表 54～表 56）

子供のアレルギーに関する情報提供として今後希望するものは、「食物アレルギーについて」が 1,265 人(46.4%)と最も多く、次いで「アトピー性皮膚炎について」1,159 人(42.5%)、「アレルギー性鼻炎について」1,140 人(41.8%)であった(表 41)。アトピー性皮膚炎と食物アレルギーでは、症状のみありの児は、診断ありの児と同程度に、情報を希望する割合が高かった（表 42）。

表４１　子供のアレルギーに関する情報提供の希望（複数回答）

	人数	%
総数	2,727	－
ぜん息について	1,076	39.5
食物アレルギーについて	1,265	46.4
アトピー性皮膚炎について	1,159	42.5
アレルギー性鼻炎について	1,140	41.8
アレルギー性結膜炎について	895	32.8
その他	42	1.5
特にない	749	27.5
無回答	310	11.4

表４２　子供のアレルギーに関する情報提供の希望（各疾患の診断・症状の有無別）（複数回答）

	各疾患についての診断・症状の有無								
	診断あり			症状のみあり			症状及び診断なし		
	総数	情報を希望		総数	情報を希望		総数	情報を希望	
		人数	%		人数	%		人数	%
ぜん息について	213	144	67.6	335	159	47.5	2,145	765	35.7
食物アレルギーについて	403	221	54.8	96	51	53.1	2,195	985	44.9
アトピー性皮膚炎について	306	184	60.1	250	151	60.4	2,131	814	38.2
アレルギー性鼻炎について	231	152	65.8	309	165	53.4	2,137	810	37.9
アレルギー性結膜炎について	108	64	59.3	101	51	50.5	2,464	772	31.3

希望する情報提供の内容については、食物アレルギーを除くすべての疾患で「一般的な知識」が最も多かった。食物アレルギーでは「緊急時の対応」が最も多く 851 人(67.3%)であった(表 43)。

表４３　子供のアレルギーに関する情報提供について今後希望する内容(疾患別)（複数回答）

		総数	一般的な知識	専門医療機関の情報	治療方法	緊急時の対応	その他	無回答
ぜん息について	人数	1,076	826	365	389	586	7	1
	%	－	76.8	33.9	36.2	54.5	0.7	0.1
食物アレルギーについて	人数	1,265	844	418	446	851	21	4
	%	－	66.7	33.0	35.3	67.3	1.7	0.3
アトピー性皮膚炎について	人数	1,159	818	454	593	311	12	8
	%	－	70.6	39.2	51.2	26.8	1.0	0.7
アレルギー性鼻炎について	人数	1,140	815	435	599	303	10	4
	%	－	71.5	38.2	52.5	26.6	0.9	0.4
アレルギー性結膜炎について	人数	895	686	277	371	293	6	1
	%	－	76.6	30.9	41.5	32.7	0.7	0.1
その他	人数	42	21	13	15	18	6	4
	%	－	50.0	31.0	35.7	42.9	14.3	9.5

８　アレルギー疾患対策に関する希望

（１）保育施設・幼稚園等への希望　　≪問 23≫　（資料編　表 57）

子供のアレルギー対策に関して保育施設・幼稚園等への希望は、「アレルギー疾患に関する職員の理解と知識の向上」が 1,272 人(46.6%)と最も多く、次いで「アレルギーの薬の預かり」903 人(33.1%)、「希望することはない」837 人(30.7%)であった。

また、平成 26 年度調査結果と比較すると、「アレルギー対応食の提供」を希望する割合は、44.7%から 29.0%と 15.7 ポイント減少していた(表 44)。

表４４　アレルギーに関する保育施設・幼稚園等への希望（複数回答）

	人数	%	診断・症状の有無（再掲）					
			何らかのアレルギーの診断あり		何らかのアレルギーの症状のみあり		アレルギーの症状及び診断なし	
			人数	%	人数	%	人数	%
総数	2,727	－	1,033	－	496	－	1,174	－
アレルギー疾患に関する職員の理解と知識の向上	1,272	46.6	531	51.4	220	44.1	514	43.8
相談体制の充実	732	26.8	280	27.1	135	27.2	312	26.6
アレルギー対応食の提供	792	29.0	313	30.3	139	28.0	337	28.7
アレルギーの薬の預かり	903	33.1	417	40.4	168	33.9	313	26.7
その他	57	2.1	30	2.9	11	2.2	15	1.3
希望することはない	837	30.7	250	24.2	144	29.0	433	36.9
無回答	152	5.6	68	6.6	31	6.3	48	4.1

（参考）過去の調査結果（複数回答）

	平成26年度(2014年度)	
	人数	*%*
総数	*3,435*	*100*
職員の理解と知識の向上	*2,212*	*64.4*
相談体制の充実	*1,188*	*34.6*
アレルギー対応食の提供	*1,535*	*44.7*
アレルギーの薬の預かりや投与	*1,357*	*39.5*
他の児童への教育	*1,343*	*39.1*
その他	*147*	*4.3*
無回答	*364*	*10.6*

（２）行政（都や区市町村）への希望　　≪問 24≫　（資料編　表 58）

子供のアレルギー対策に関する行政への希望として、「住民へのアレルギー疾患に関する知識や情報の提供」が 1,170 人(42.9%)と最も多く、次いで「保健・福祉・教育関係者に対する知識や理解向上のための取組」が 1,035 人(38.0%)、「住民への医療機関に関する情報の提供」が 971 人(35.6%)であった。

また、アレルギー疾患の診断や症状の有無にかかわらず、「住民へのアレルギー疾患に関する知識や情報の提供」を希望する割合が最も高かった(表 45)。

表４５　アレルギー対策に関する行政（都や区市町村）への希望（複数回答）

	人数	%	診断・症状の有無（再掲）					
			何らかのアレルギーの診断あり		何らかのアレルギーの症状のみあり		アレルギーの症状及び診断なし	
			人数	%	人数	%	人数	%
総数	2,727	－	1,033	－	496	－	1,174	－
住民へのアレルギー疾患に関する知識や情報の提供	1,170	42.9	402	38.9	210	42.3	548	46.7
住民への医療機関に関する情報の提供	971	35.6	353	34.2	185	37.3	426	36.3
保健・福祉・教育関係者に対する知識や理解向上のための取組	1,035	38.0	400	38.7	190	38.3	439	37.4
食品表示の監視の徹底	846	31.0	346	33.5	144	29.0	349	29.7
その他	77	2.8	38	3.7	9	1.8	29	2.5
希望することはない	673	24.7	262	25.4	117	23.6	285	24.3

（参考）過去の調査結果（複数回答）

	平成26年度(2014年度)	
	人数	*%*
総数	*3,435*	*100*
アレルギー疾患に関する知識や情報の提供	*1,601*	*46.6*
医療機関に関する情報の提供	*1,488*	*43.3*
関係者に対する知識や理解の向上のための取組	*1,412*	*41.1*
食品表示の監視の徹底	*1,509*	*43.9*
禁煙・分煙など、たばこ対策の徹底	*1,936*	*56.4*
その他	*176*	*5.1*
無回答	*296*	*8.6*

（３）医療機関への希望　　≪問 25≫　（資料編　表 59）

子供のアレルギーに関する医療機関への希望は、「薬や治療法などの十分な説明と相談対応」が 1,578 人(57.9%)と最も多く、次いで「夜間や救急対応の充実」1,365 人(50.1%)、「専門医療機関の増加」886 人(32.5%)であった。

また、何らかのアレルギー疾患の診断や症状の有無に関わらず、「薬や治療法等の十分な説明と相談対応」を希望する割合が最も高かった(表 46)。

表４６　アレルギーに関する医療機関への希望（複数回答）

	人数	%	診断・症状の有無（再掲）					
			何らかのアレルギーの診断あり		何らかのアレルギーの症状のみあり		アレルギーの症状及び診断なし	
			人数	%	人数	%	人数	%
総数	2,727	－	1,033	－	496	－	1,174	－
薬や治療法などの十分な説明と相談対応	1,578	57.9	599	58.0	304	61.3	666	56.7
夜間や救急対応の充実	1,365	50.1	508	49.2	233	47.0	617	52.6
専門医療機関の増加	886	32.5	376	36.4	141	28.4	364	31.0
保健・福祉・教育関係者などへの指導	669	24.5	260	25.2	111	22.4	293	25.0
専門医への紹介等医療機関どうしの連携強化	796	29.2	314	30.4	155	31.3	322	27.4
その他	48	1.8	20	1.9	8	1.6	20	1.7
希望することはない	531	19.5	183	17.7	96	19.4	242	20.6

（４）アレルギーに関する困りごと　　≪問 26≫　（資料編　P81～85）

「アレルギーに関してお困りのことなど」についての回答者は 445 人であり、「医療機関の検索に困る（専門分野、検査、治療等の情報がわかりづらい）」、「血液検査等でアレルギーの有無について検査する機会を設けてほしい」、「アレルギーになる可能性のある食品を用いた場合の離乳食の進め方について詳しく情報提供してほしい」等であった。

９　まとめ及び考察

本調査は３歳児健康診査の受診者の保護者に対して調査票を配布し、郵送及びWebによる回答の協力を求めたものである。そのため、アレルギー症状を有する人やアレルギーに関心を持つ方が調査に協力的である傾向も考えられ、り患状況等が真の値より高く算出されるなど、調査手法による偏りの可能性があることに留意する必要がある。

（１）対象者の概要（P11～）

令和元年10月の３歳児健康診査受診予定者は11,380人で、このうち8,343人に区市町村の協力を得て調査票を配布し、2,727人より回答を得た（回収率32.7％）。

今回の調査における回答者の性別・地区別の割合（性別：男子51.2%、女子47.7%、地区別：区部71.0%、多摩地域28.6%、島しょ地域0.4%）は、東京都内の３歳児の性別・地区別の人口の割合（住民基本台帳による令和２年１月現在の人口：男子51.1%、女子48.9%、区部68.5%、多摩地域31.3%、島しょ地域0.4%）とほぼ同様であった。

保育施設等の通所(園)状況は、63.0%が通所(園)しており、過去最も高い割合であった。

（２）アレルギー疾患のり患状況

ア　アレルギー疾患の有症率、り患状況（P13～）

３歳までに「何らかのアレルギーの症状」があった児は全体の56.2%で、平成26年度調査結果と比べて0.9ポイント増加した。平成16年度調査以降、３歳児の半数以上が「何らかのアレルギーの症状」を経験している状況が続いている。

診断された児の推移では、平成11年度調査から平成26年度調査まで食物アレルギーは一貫して増加傾向であったが、今回の調査では減少となった。

「ぜん息」、「2回以上の呼吸器症状」、「食物アレルギー」は前回調査より有意に減少した。さらに「じんましん」以外のすべての疾患で、診断された児の割合が減少した。

イ　アレルギー疾患の合併状況（P18）

３歳までにアレルギー疾患の診断された児における、他の疾患との合併状況は、アレルギー性結膜炎と診断された児がアレルギー性鼻炎を合併している割合が59.3%と最も多く、またアトピー性皮膚炎と診断された児が食物アレルギーを合併している割合が40.2%、じんましんと診断された児が食物アレルギーを合併している割合が34.8%であった。

アレルギー疾患は複数の疾患を合併する場合も多いため、診療科同士の連携が必要である。

ウ　診断された年齢（P19）

３歳までにアレルギー疾患の診断された児における診断された年齢をみると食物アレルギーとアトピー性皮膚炎は、約半数近くが１歳までに診断されていた。中でもアトピー性皮膚炎と診断された児の25.5%が生後６か月未満で診断されるため、乳児期早期から医療機関や保健機関で相談できる体制が必要である。

エ　診断までに受診を要した医療機関数（P20）

全ての疾患において、診断された児の半数以上が１か所目の医療機関で診断を受けているが、アトピー性皮膚炎は１か所で診断される割合は61.9%と全疾患の中で最も低くなっていた。

オ　現在の通院状況（P21）

３歳までにアレルギー疾患の診断された児のうち、現在通院中(または管理中)の児の割合が最も高かった疾患は、アトピー性皮膚炎であった。

カ　通所（園）児の状況（P17）

保育施設等に通所（園）している児のうち、「何らかのアレルギー疾患を診断された児」は40.6%を占めており、家庭だけでなく、通所（園）施設におけるアレルギー疾患対策の必要性が再確認できた。

アレルギーのある児が安全かつ安心してに集団生活を送るためには、医師が作成する生活管理指導表を十分に活用し、保護者、保育・教育施設職員、主治医間の的確な情報共有が重要である。

（３）ぜん息の症状、診断と治療状況（P22～）

３歳までにぜん息の診断された児の割合は7.9%で、平成26年度調査結果に比べ有意に減少した。

ぜん息の重症度分類に基づき直近１年間の臨床症状の状態を分類したところ、間欠型が80.1%と最も多く、平成21年度調査から大きな変化は見られなかった。

処方薬に関しては、平成26年度調査との比較では、処方薬ありの割合がやや減少し、処方薬なしがやや増加していた。処方薬の組合せについては、大きな変化は見られなかった。

（４）食物アレルギーの症状、診断と治療状況

ア　食物アレルギーのり患状況（P14）

３歳までに食物アレルギーの診断された児の割合は全体の14.9%と、平成26年度調査結果と比べ有意に減少した。

イ　食物アレルギーと診断された児の症状（P28～）

直近１年間に症状がなかった児の割合は、平成26年度調査と比較すると増加していた。

３歳までに食物アレルギーと診断された児403人のうち、食物アレルギーで出現した症状は、最も割合が高かったのは皮膚の症状で93.1%であった。また最も重篤であるショック症状は12.2%の児が経験していた。

食物アレルギーと診断された児から無回答を除いた394人のうち、アドレナリン自己注射薬(エピペン®)を処方されているのは3.0%であり、これは処方適用の体重に満たない年齢時期も関係していると考えられる。

保護者のみならず、通所（園）先施設の職員に対し、食物アレルギーにおける危険な症状に迅速・適切に対応できるよう、正しい知識を提供するため、都のホームページの掲載や講演会の開催等による、積極的な情報提供が必要であると考えられる。

ウ　食物アレルギーが出現した原因食物と制限または除去の状況（P30、P32）

３歳までに食物アレルギーと診断された児における、アレルギーの原因（と思われる）食物は、鶏卵、牛乳、小麦、クルミ、落花生、いくらの順で多かった。クルミは平成 26 年度調査結果と比較すると増加していたが、いくらは減少していた。

食物アレルギーの診断された児の 48.6%が医師の指示による食物の制限または除去をしていた。

一方、自主的に（医師の診断とは別に）食物の制限または除去をしている児は 30.2%であった。

自主的に制限または除去をしている割合が高かったのは、一般的に食物アレルギーが発症すると治りにくいとされている、そば、落花生、かに、えびなどの食品であった。また、鶏卵については自主的に制限または除去している割合が 35.0%と最も高かった。

成長・発達期にある乳幼児において、保護者の自己判断によって不必要な制限や除去をすることがないように、正しいアレルゲンの診断に基づく必要最小限の食物制限や除去に関する普及啓発が必要と考えられる。

エ　アレルギー食物経口負荷試験の実施状況（P31）

３歳までに食物アレルギーと診断された児の 30.8%が食物経口負荷試験を受けていた。

オ　未摂取食物の状況（P34）

加工食品についてアレルギー表示義務のある食品原材料 7 品目（鶏卵、牛乳、小麦、そば、落花生(ピーナッツ)、えび、かに）、表示が推奨されている食品原材料 20 品目(アワビ、いか、いくら、オレンジ、カシューナッツ、キウイフルーツ、牛肉、クルミ、ゴマ、さけ、さば、ゼラチン、大豆、鶏肉、バナナ、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご)に関する未摂取状況を調査した。全体の半数以上の児が一度も食べたことのない食品は、あわび、まつたけ、カシューナッツであった。

「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(2019 年改訂版)によると、「子供が初めて食べる食品については、家庭で安全に食べられることを確認してから保育園で提供を開始することを基本とする」とされており、未摂取食物について施設等と保護者が情報・対応を共有することが重要と思われる。

カ　誤食と誤食の起こった状況（P36～）

３歳までに食物アレルギーと診断された児の 21.9%が誤食を経験しており、誤食の発生場所は自宅が 69.0%と最も多いが、32.2%が飲食店等の外食先でも経験していた。

保育施設等以外の場所における誤食原因としては「原因食材の未確認」が最も多かった。

（５）アトピー性皮膚炎の症状、診断と治療状況（P38～）

３歳までにアトピー性皮膚炎と診断された児の割合は全体の 11.3%と、平成 26 年度調査結果とほぼ同じ割合であった。

治療内容では、ほとんどの児が薬物治療を受けている一方で、スキンケアの指導は約 53.8%にとどまっていた。アトピー性皮膚炎の治療においては、薬物治療と並行してスキンケアを実施することで治療効果が高まるとされていることから、スキンケアの指導の重要性を普及啓発していく必要がある。

ステロイド外用薬の使用については、これまでにアトピー性皮膚炎と診断された児の保護者のうち、「使う」または「できれば使いたくないが、必要であれば使う」と回答したのは99.3%であり、ほとんどの保護者が使用しているが、そのうち「できれば使いたくないが、必要であれば使う」との回答が58.4%と半数を超えていた。ステロイド外用薬の副作用や正しい知識について普及啓発を進め、保護者が安心して治療を受け入れられるよう働きかけていく必要がある。

（６）スキンケアについて（P40～）

沐（もく）浴以外のスキンケアの方法について、全体の83.2%が知る機会があったと回答した。そのうち、約半数の知る機会は医療機関においてであった。医療機関の受診時は、出産直後や乳児健診等においてスキンケアの必要性や方法を効果的に普及啓発を行える機会となると考えられる。

現在行っている具体的なスキンケアの方法については、「主に手のみで洗う」や「石鹸等を使い、よく泡立てて洗う」の回答が全体のそれぞれ8割近くを占めており、正しいスキンケア方法がある程度広まっていると考えられる。

（７）アレルギー疾患に関する情報提供等について（P42～）

アレルギーに関する情報については、全体の88.9%が入手したことがあると回答しており、保護者の関心の高さがうかがえる。また、何らかのアレルギー疾患と診断された児の保護者は、いずれの診断も症状もない児の保護者と比較すると、情報を入手したことがある割合が高い傾向にあった。

入手方法として最も多かったのは「医療機関」からの情報であり、「友人・知人」、「ホームページ(その他)」が次いで多かった。保健所・保健センター、公的機関のパンフレット、東京都アレルギー情報navi．等よりも、友人や、その他のメディアから情報を入手している傾向にあった。

子供のアレルギーに関する情報として、今後提供を希望する内容としては、食物アレルギーを除く全ての疾患で「一般的な知識」が最も多かったが、食物アレルギーは「緊急時の対応」が最も多かった。

インターネット等で様々な情報が錯綜し、入手した情報が必ずしも適切な内容と限らない場合もあり、正しい情報を効果的に入手する方法等について啓発していく取組が必要である。

（８）アレルギー疾患対策に関する希望

ア．保育施設・幼稚園等に関する希望（P45）

「アレルギー疾患に関する職員の理解と知識の向上」が46.6%と最も多かった。平成26年度調査結果と比較すると、「アレルギー対応食の提供」を希望する割合は、44.7%から29.0%と減少しており、保育施設等でアレルギー対応食の導入が広まった可能性が考えられる。

イ．行政（都や区市町村）に対する希望（P46）

「住民へのアレルギー疾患に関する知識や情報の提供」が42.9%と最も多く。次いで、「保健・福祉・教育関係者に対する知識や理解向上のための取組」が38.0%であった。行政は、住民や子供に関わる関係機関の職員向けに正しい知識や情報の発信を行っていく必要がある。

ウ．医療機関に対する希望（P47）

「薬や治療法などの十分な説明と相談対応」が 57.9%と最も多く、次いで、「夜間や救急対応の充実」が 50.1%であった。

（９）アレルギー疾患に関する困りごと（P47）

「医療機関の検索に困る（専門分野、検査、治療等の情報がわかりづらい）」、「アレルギーになる可能性のある食品を用いた場合の離乳食の進め方について詳しく情報提供してほしい」等、情報が不足していることによる困りごとが多かった。

また、「血液検査等でアレルギーの有無について検査する機会を設けてほしい」という意見がみられたが、アレルギーは血液検査だけでは診断できない場合もあり、正しい情報の提供が必要であると考えられる。

Ⅲ　資料編

1　集計データ

集計対象者の概要

３歳児の属性

表１　居住地域（区部・多摩・島しょ別）

	人数	%
区部	1,936	71.0
多摩地域	781	28.6
島しょ地域	10	0.4
不明	0	0.0
総数	2,727	100.0

表 2　性別

	人数	%
男児	1,396	51.2
女児	1,302	47.7
無回答	29	1.1
総数	2,727	100.0

表 3　通所（園）状況

	人数	%
通所（園）していない	1,004	36.8
通所（園）している	1,711	62.7
無回答	12	0.4
総数	2,727	100.0

表 4　通所（園）開始年齢

	人数	%
0～6ヶ月未満	43	2.5
6～12ヶ月未満	737	43.1
12～18ヶ月未満	118	6.9
18～24ヶ月未満	488	28.5
24～30ヶ月未満	47	2.7
30～36ヶ月未満	223	13.0
36ヶ月以上	55	3.2
無回答	0	0.0
総数（通所（園）している）	1,711	100.0

表 5　通所（園）施設

	人数	%
認可保育所	1,264	73.9
認証保育所	119	7.0
幼稚園	108	6.3
認定こども園	53	3.1
上記以外の保育施設	104	6.1
その他	38	2.2
無回答	25	1.5
総数（通所（園）している）	1,711	100.0

問１　これまでに、下記の１から６のアレルギー「症状」がありましたか？

また、この１年間に「症状」がありましたか？

１から６の症状のそれぞれについて、「あり」か「なし」の□に☑をつけてください。

表 6　各疾患のこれまでのアレルギー「症状」の有無

	これまで症状あり		これまで症状なし		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%
1 呼吸器	533	19.5	2,171	79.6	23	0.8
2 食物アレルギー	482	17.7	2,220	81.4	25	0.9
3 アトピー性皮膚炎	555	20.4	2,144	78.6	28	1.0
4 アレルギー性鼻炎	542	19.9	2,155	79.0	29	1.1
5 アレルギー性結膜炎	207	7.6	2,492	91.4	28	1.0
6 じんましん	557	20.4	2,147	78.7	23	0.8

※「アレルギー性鼻炎」は、不明回答１を除く。

表 7　各疾患のこの１年間のアレルギー「症状」の有無

	この1年間症状あり		この1年間症状なし		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%
1 呼吸器	361	13.2	2,343	85.9	23	0.8
2 食物アレルギー	223	8.2	2,481	91.0	23	0.8
3 アトピー性皮膚炎	454	16.6	2,243	82.3	30	1.1
4 アレルギー性鼻炎	488	17.9	2,205	80.9	34	1.2
5 アレルギー性結膜炎	177	6.5	2,530	92.8	20	0.7
6 じんましん	382	14.0	2,320	85.1	25	0.9

問２　これまでに、下記の１から６のアレルギー疾患と医師に「診断」されたことがありますか？
１から６のそれぞれの疾患について「あり」か「なし」の□に☑をつけてください。
診断されたことがある方は、診断された年齢、診断までにかかった医療機関数（診断した医療機関を含む）をお答えください。また、現在通院中（又は管理中）の方は、□に☑をいれてください。

表 8　各疾患の「診断」の有無

	診断あり		診断なし		無回答	
	人数	%	人数	%	人数	%
1 ぜん息、ぜん息性気管支炎、小児ぜん息	213	7.8	2,492	91.4	22	0.8
2 食物アレルギー	403	14.8	2,305	84.5	19	0.7
3 アトピー性皮膚炎	306	11.2	2,398	87.9	23	0.8
4 アレルギー性鼻炎	231	8.5	2,465	90.4	31	1.1
5 アレルギー性結膜炎	108	4.0	2,579	94.6	40	1.5
6 じんましん	339	12.4	2,354	86.3	34	1.2

表 9　各疾患の診断を受けた児の通所（園）状況

	診断あり				診断なし				無回答			
	通所(園)していない	通所(園)している	無回答	全体	通所(園)していない	通所(園)している	無回答	全体	通所(園)していない	通所(園)している	無回答	全体
1 ぜん息、ぜん息性気管支炎、小児ぜん息	61	152	0	213	937	1,552	3	2,492	6	7	9	22
2 食物アレルギー	127	276	0	403	874	1,428	3	2,305	3	7	9	19
3 アトピー性皮膚炎	96	210	0	306	905	1,490	3	2,398	3	11	9	23
4 アレルギー性鼻炎	78	153	0	231	918	1,544	3	2,465	8	14	9	31
5 アレルギー性結膜炎	37	70	1	108	958	1,619	2	2,579	9	22	9	40
6 じんましん	120	219	0	339	874	1,477	3	2,354	10	15	9	34

表 10　各疾患の症状（これまでに）・診断の状況

	診断あり				診断なし				無回答			
	症状あり	症状なし	無回答	全体	症状あり	症状なし	無回答	全体	症状あり	症状なし	無回答	全体
1 ぜん息、ぜん息性気管支炎、小児ぜん息	195	18	0	213	335	2,145	12	2,492	3	8	11	22
2 食物アレルギー	386	16	1	403	96	2,195	14	2,305	0	9	10	19
3 アトピー性皮膚炎	303	3	0	306	250	2,131	17	2,398	2	10	11	23
4 アレルギー性鼻炎	224	7	0	231	309	2,138	18	2,465	9	11	11	31
5 アレルギー性結膜炎	100	8	0	108	101	2,464	14	2,579	6	20	14	40
6 じんましん	336	3	0	339	216	2,126	12	2,354	5	18	11	34

表 11　これまでに医師に「診断」されたことがある各アレルギー疾患の合併状況（複数回答）

		全体	ぜん息、ぜん息性気管支炎、小児ぜん息	食物アレルギー	アトピー性皮膚炎	アレルギー性鼻炎	アレルギー性結膜炎	じんましん	無回答
全体	人数		213	403	306	231	108	339	1,694
	割合		7.8	14.8	11.2	8.5	4.0	12.4	62.1
1 ぜん息、ぜん息性気管支炎、小児ぜん息	人数	213	213	51	49	26	8	31	0
	割合	100.0	100.0	23.9	23.0	12.2	3.8	14.6	0.0
2 食物アレルギー	人数	403	51	403	123	62	28	118	0
	割合	100.0	12.7	100.0	30.5	15.4	6.9	29.3	0.0
3 アトピー性皮膚炎	人数	306	49	123	306	60	30	61	0
	割合	100.0	16.0	40.2	100.0	19.6	9.8	19.9	0.0
4 アレルギー性鼻炎	人数	231	26	62	60	231	64	51	0
	割合	100.0	11.3	26.8	26.0	100.0	27.7	22.1	0.0
5 アレルギー性結膜炎	人数	108	8	28	30	64	108	32	0
	割合	100.0	7.4	25.9	27.8	59.3	100.0	29.6	0.0
6 じんましん	人数	339	31	118	61	51	32	339	0
	割合	100.0	9.1	34.8	18.0	15.0	9.4	100.0	0.0
無回答	人数	1694	0	0	0	0	0	0	1,694
	割合	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

表 12　各アレルギー疾患の初めて診断された年齢

	ぜん息、ぜん息性気管支炎、小児ぜん息		食物アレルギー		アトピー性皮膚炎		アレルギー性鼻炎		アレルギー性結膜炎		じんましん	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
0～3ヶ月未満	14	6.6	19	4.7	38	12.4	21	9.1	10	9.3	32	9.4
3～6ヶ月未満	4	1.9	24	6.0	40	13.1	5	2.2	0	0.0	5	1.5
6～9ヶ月未満	13	6.1	129	32.0	45	14.7	8	3.5	3	2.8	34	10.0
9～12ヶ月未満	12	5.6	70	17.4	15	4.9	3	1.3	0	0.0	12	3.5
12～15ヶ月未満	35	16.4	73	18.1	51	16.7	35	15.2	9	8.3	41	12.1
15～18ヶ月未満	8	3.8	15	3.7	5	1.6	6	2.6	2	1.9	15	4.4
18～21ヶ月未満	25	11.7	10	2.5	20	6.5	18	7.8	7	6.5	15	4.4
21～24ヶ月未満	12	5.6	11	2.7	5	1.6	1	0.4	3	2.8	12	3.5
24～27ヶ月未満	36	16.9	18	4.5	45	14.7	52	22.5	27	25.0	45	13.3
27～30ヶ月未満	8	3.8	7	1.7	9	2.9	18	7.8	8	7.4	16	4.7
30～33ヶ月未満	17	8.0	9	2.2	15	4.9	40	17.3	20	18.5	44	13.0
33～36ヶ月未満	17	8.0	10	2.5	12	3.9	10	4.3	11	10.2	38	11.2
36ヶ月以上	12	5.6	8	2.0	6	2.0	14	6.1	8	7.4	28	8.3
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.6
総数	213	100.0	403	100.0	306	100.0	231	100.0	108	100.0	339	100.0

表 13　各アレルギー疾患の診断までにかかった医療機関数

	ぜん息、ぜん息性気管支炎、小児ぜん息		食物アレルギー		アトピー性皮膚炎		アレルギー性鼻炎		アレルギー性結膜炎		じんましん	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1か所	124	58.2	262	65.0	153	50.0	143	61.9	72	66.7	220	64.9
2か所	45	21.1	84	20.8	69	22.5	33	14.3	12	11.1	42	12.4
3か所	13	6.1	13	3.2	19	6.2	5	2.2	1	0.9	5	1.5
4か所以上	6	2.8	2	0.5	6	2.0	4	1.7	1	0.9	0	0.0
無回答	25	11.7	42	10.4	59	19.3	46	19.9	22	20.4	72	21.2
総数	213	100.0	403	100.0	306	100.0	231	100.0	108	100.0	339	100.0

表 14　各アレルギー疾患の診断までにかかった医療機関数（地域別）

	ぜん息、ぜん息性気管支炎、小児ぜん息			食物アレルギー			アトピー性皮膚炎			アレルギー性鼻炎			アレルギー性結膜炎			じんましん		
	区部	多摩地域	島しょ	区部	多摩地域	島しょ	区部	多摩地域	島しょ	区部	多摩地域	島しょ	区部	多摩地域	島しょ	区部	多摩地域	島しょ
全体	134	52	2	263	96	2	168	77	2	115	69	1	49	37	0	178	87	2
1か所	87	36	1	199	63	0	107	45	1	89	53	1	41	31	0	148	72	0
2か所	34	10	1	55	28	1	42	26	1	21	12	0	6	6	0	28	13	1
3か所	8	5	0	8	4	1	13	6	0	3	2	0	1	0	0	2	2	1
4か所以上	5	1	0	1	1	0	6	0	0	2	2	0	1	0	0	0	0	0
無回答	17	7	1	29	13	0	48	10	1	32	14	0	16	6	0	51	21	0

表 15　各アレルギー疾患の診断を受け現在通院中（又は管理中）の児

	診断あり	現在通院中（又は管理中）	%
1 ぜん息、ぜん息性気管支炎、小児ぜん息	213	111	52.1
2 食物アレルギー	403	156	38.7
3 アトピー性皮膚炎	306	205	67.0
4 アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）	231	76	32.9
5 アレルギー性結膜炎（花粉症を含む）	108	27	25.0
6 じんましん	339	51	15.0

「これまでに呼吸器症状がある」又は、「ぜん息、ぜん息性気管支炎、小児ぜん息と診断されたことがある」とお答えの方

問３　これまでに、セキこんだり、息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」するなど、苦しそうな症状が２回以上出たことはありますか。また、初めて症状が出たのは何歳何ヶ月頃ですか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

表 16

	症状又は診断あり		診断あり	
	人数	%	人数	%
2回以上あり	336	61.0	178	83.6
なし（まったく症状がでていない、1回だけ症状がでた）	100	18.1	34	16.0
無回答	115	20.9	1	0.5
総数	551	100.0	213	100.0

表 17　初めて症状が起きた年齢（2 回以上症状ありと回答の方）（6 ヶ月ごと）

	症状又は診断あり		診断あり	
	人数	%	人数	%
0～6ヶ月未満	29	8.6	8	4.5
6～12ヶ月未満	67	19.9	42	23.6
12～18ヶ月未満	87	25.9	45	25.3
18～24ヶ月未満	59	17.6	30	16.9
24～30ヶ月未満	50	14.9	29	16.3
30～36ヶ月未満	38	11.3	19	10.7
36ヶ月以上	6	1.8	5	2.8
総数	336	100.0	178	100.0

表 18　初めて症状が起きた年齢（2 回以上症状ありと回答の方）（3 ヶ月ごと）

	症状又は診断あり		診断あり	
	人数	%	人数	%
0～3ヶ月未満	17	5.1	5	2.8
3～6ヶ月未満	12	3.6	3	1.7
6～9ヶ月未満	43	12.8	23	12.9
9～12ヶ月未満	24	7.1	19	10.7
12～15ヶ月未満	72	21.4	37	20.8
15～18ヶ月未満	15	4.5	8	4.5
18～21ヶ月未満	41	12.2	20	11.2
21～24ヶ月未満	18	5.4	10	5.6
24～27ヶ月未満	42	12.5	26	14.6
27～30ヶ月未満	8	2.4	3	1.7
30～33ヶ月未満	28	8.3	13	7.3
33～36ヶ月未満	10	3.0	6	3.4
36ヶ月以上	6	1.8	5	2.8
総数	336	100.0	178	100.0

問４　上記のような呼吸器症状に関して、この１年間の状態について、以下の１から６までのうち、最も近い番号１つに○をつけてください。

表 19　この１年間の状態（2 回以上症状ありと回答の方）

	症状又は診断あり		診断あり	
	人数	%	人数	%
この1年間は呼吸器症状が全くなかった	72	21.4	47	22.1
間欠型 （年に数回、季節的にあった）	217	64.6	129	60.6
軽症持続型 （月1回以上、週1回未満あった）	16	4.8	10	4.7
中等症持続型 （週1回以上あったが、毎日続くほどではなかった）	15	4.5	14	6.6
重症持続型 （毎日あった）	10	3.0	6	2.8
最重症持続型 （治療を受けても毎日あった。入退院をくり返した）	2	0.6	2	0.9
無回答	4	1.2	5	2.3
総数	336	100.0	213	100.0

問５　「ぜん息、ぜん息性気管支炎、小児ぜん息」の診断を受けた方にお聞きします。

現在治療のために、１ヵ月以上の間、毎日使用するように医師から処方されている薬はありますか。「あり」の方は、処方されている薬の種類をすべてを選び、番号に○をつけてください。

表 20　毎日使用するように医師から処方されている薬の有無

	人数	%
処方薬あり	108	50.7
処方薬なし	99	46.5
無回答	6	2.8
総数	213	100.0

表 21　処方されている薬の種類（複数回答）

	処方薬あり n=108	%
内服薬	96	88.9
吸入薬（ステロイド）	31	28.7
吸入薬（その他）	13	12.0
吸入薬（不明）	8	7.4
はり薬	27	25.0
その他	2	1.9

「その他」の主な内容：塗り薬・ステロイド・プロトピック、抗生物質（様子をみるため）

表 22　処方されている薬の種類（複数回答）

	処方薬あり n=108	%
内服薬	44	40.7
吸入薬	6	5.6
はり薬	3	2.8
内服薬+吸入薬（2種のみ）	30	27.8
内服薬+はり薬（2種のみ）	12	11.1
吸入薬+はり薬（2種のみ）	2	1.9
内服薬+吸入薬+はり薬	9	8.3
その他	2	1.9

「これまでに食物アレルギーの症状がある」又は、「食物アレルギーと診断されたことがある」とお答えの方

問６　食物アレルギーの症状が初めて起きたのは、何歳何か月頃ですか。

表 23　食物アレルギーの症状が初めて起きた年齢（6 ヶ月ごと）

	症状又は診断あり		診断あり	
	人数	%	人数	%
0～6ヶ月未満	59	11.8	37	9.2
6～12ヶ月未満	260	52.1	231	57.3
12～18ヶ月未満	85	17.0	74	18.4
18～24ヶ月未満	36	7.2	23	5.7
24～30ヶ月未満	34	6.8	22	5.5
30～36ヶ月未満	17	3.4	11	2.7
36ヶ月以上	7	1.4	5	1.2
無回答	1	0.2	0	0.0
総数	499	100.0	403	100.0

表 24　食物アレルギーの症状が初めて起きた年齢（3 ヶ月ごと）

	症状又は診断あり		診断あり	
	人数	%	人数	%
0～3ヶ月未満	36	7.2	14	3.5
3～6ヶ月未満	23	4.6	23	5.7
6～9ヶ月未満	168	33.7	155	38.5
9～12ヶ月未満	92	18.4	76	18.9
12～15ヶ月未満	76	15.2	65	16.1
15～18ヶ月未満	9	1.8	9	2.2
18～21ヶ月未満	24	4.8	13	3.2
21～24ヶ月未満	12	2.4	10	2.5
24～27ヶ月未満	25	5.0	15	3.7
27～30ヶ月未満	9	1.8	7	1.7
30～33ヶ月未満	9	1.8	4	1.0
33～36ヶ月未満	8	1.6	7	1.7
36ヶ月以上	7	1.4	5	1.2
不明	1	0.2	0	0.0
総数	499	100.0	403	100.0

問７　これまで食物アレルギーで出たことのある症状はどのような症状でしたか。あてはまる症状をすべて○で選んでください。（複数回答）

表 25　食物アレルギーで出たことのある症状①（複数回答）

	症状又は診断あり n=499		診断あり n=403	
	人数	%	人数	%
皮膚の症状	434	87.0	367	91.1
目の症状	148	29.7	127	31.5
鼻の症状	43	8.6	42	10.4
口の症状	111	22.2	100	24.8
消化器の症状	121	24.2	116	28.8
呼吸器の症状	72	14.4	69	17.1
ショック症状	48	9.6	48	11.9
その他	19	3.8	15	3.7
無回答	32	6.4	9	2.2

表 26　食物アレルギーで出たことのある症状②（複数回答）

		症状又は診断あり n=499		診断あり n=403	
		人数	%	人数	%
皮膚の症状	かゆみ	205	41.1	184	45.7
	じんましん	265	53.1	240	59.6
	赤くなる	365	73.1	307	76.2
目の症状	目のかゆみや充血	59	11.8	53	13.2
	まぶたの腫れ	128	25.7	109	27.0
鼻の症状	くしゃみ	23	4.6	22	5.5
	鼻水	33	6.6	32	7.9
	鼻づまり	14	2.8	14	3.5
口の症状	口の中の違和感	54	10.8	49	12.2
	唇の腫れ	81	16.2	75	18.6
消化器の症状	腹痛	12	2.4	12	3.0
	吐き気	27	5.4	26	6.5
	おう吐	92	18.4	87	21.6
	下痢	49	9.8	48	11.9
呼吸器の症状	声がかすれる	13	2.6	13	3.2
	犬が吠えるような咳	8	1.6	7	1.7
	のどや胸が締め付けられる	5	1.0	5	1.2
	咳	45	9.0	44	10.9
	息がしにくい	26	5.2	26	6.5
	ゼーゼー、ヒューヒュー	31	6.2	29	7.2
ショック症状	意識がない	2	0.4	2	0.5
	意識もうろう	10	2.0	10	2.5
	ぐったり	42	8.4	42	10.4
	尿や便を漏らす	0	0.0	0	0.0
	脈が触れにくい	1	0.2	1	0.2
	唇やつめが青白い	10	2.0	10	2.5
その他		19	3.8	15	3.7
無回答		32	6.4	9	2.2

「その他」の主な内容：発熱、鼻血、激しく泣く、顔全体や耳の腫れなど

問８　これまでに食物アレルギーの症状が出た原因（と思われる）食物は何でしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（複数回答）

表 27　食物アレルギーの症状が出た原因（と思われる）食物（複数回答）

		症状又は診断あり n =499		診断あり n =403		症状のみあり n =96	
		人数	%	人数	%	人数	%
1	鶏卵	332	66.5	296	73.4	36	37.9
2	牛乳	122	24.4	114	28.3	8	8.4
3	小麦	57	11.4	55	13.6	2	2.1
4	そば	3	0.6	3	0.7	0	0.0
5	落花生	23	4.6	21	5.2	2	2.1
6	えび	12	2.4	10	2.5	2	2.1
7	かに	6	1.2	5	1.2	1	1.1
8	あわび	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9	いか	2	0.4	1	0.2	1	1.1
10	いくら	24	4.8	17	4.2	7	7.4
11	オレンジ	1	0.2	1	0.2	0	0.0
12	カシューナッツ	13	2.6	11	2.7	2	2.1
13	キウイフルーツ	22	4.4	16	4.0	6	6.3
14	牛肉	1	0.2	1	0.2	0	0.0
15	クルミ	29	5.8	24	6.0	5	5.3
16	ゴマ	9	1.8	8	2.0	1	1.1
17	さけ	5	1.0	5	1.2	0	0.0
18	さば	8	1.6	5	1.2	3	3.2
19	ゼラチン	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20	大豆	13	2.6	9	2.2	4	4.2
21	鶏肉	0	0.0	0	0.0	0	0.0
22	バナナ	10	2.0	9	2.2	1	1.1
23	豚肉	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24	まつたけ	0	0.0	0	0.0	0	0.0
25	もも	0	0.0	0	0.0	0	0.0
26	やまいも	8	1.6	6	1.5	2	2.1
27	りんご	4	0.8	4	1.0	0	0.0
28	その他	57	11.4	43	10.7	14	14.7
29	原因となる食物は分からない	4	0.8	2	0.5	2	2.1
	無回答	26	5.2	3	0.7	22	23.2

問９　これまでにアレルギー食物経口負荷試験（注）を受けたことがありますか。ある場合は回数もお答えください。

（注）食物経口負荷試験：アレルギー疾患が確定しているか、もしくは疑われる食品を摂取させ、誘発症状の有無を確認する検査

表 28　アレルギー食物経口負荷試験の有無

	症状又は診断あり		診断あり		症状のみあり	
	人数	%	人数	%	人数	%
あり	127	25.5	124	30.8	3	3.1
なし	341	68.3	272	67.5	69	71.9
無回答	31	6.2	7	1.7	24	25.0
総数	499	100.0	403	100.0	96	100.0

表 29　アレルギー食物経口負荷試験の回数

	症状又は診断あり		診断あり		症状のみあり	
	人数	%	人数	%	人数	%
1回	56	44.1	55	44.4	1	33.3
2回	16	12.6	16	12.9	0	0.0
3回	13	10.2	12	9.7	1	33.3
4回	4	3.1	4	3.2	0	0.0
5回	4	3.1	4	3.2	0	0.0
6～9回	3	2.4	3	2.4	1	33.3
10～19回	1	0.8	1	0.8	0	0.0
20回以上	4	3.1	4	3.2	0	0.0
無回答	26	20.5	26	21.0	0	0.0
総数	127	100.0	124	100.0	3	100.0

問１０　現在、医師の指示で食物アレルギー原因食物の制限や除去をしていますか。
制限や除去をしている場合は、あてはまる食物すべてに○をつけてください。

表 30　医師の指示での食物アレルギー原因食物の制限や除去の有無

	症状又は診断あり		診断あり		症状のみあり	
	人数	%	人数	%	人数	%
制限や除去をしていない	270	54.1	202	50.1	68	70.8
制限や除去をしている	196	39.3	191	47.4	5	5.2
無回答	33	6.6	10	2.5	23	24.0
総数	499	100.0	403	100.0	96	100.0

表 31　医師の指示で制限や除去をしている食物（複数回答）

		症状又は診断あり n=196		診断あり n=191	
		人数	%	人数	%
1	鶏卵	113	57.7	111	58.1
2	牛乳	42	21.4	42	22.0
3	小麦	10	5.1	10	5.2
4	そば	4	2.0	4	2.1
5	落花生	27	13.8	26	13.6
6	えび	9	4.6	9	4.7
7	かに	6	3.1	6	3.1
8	あわび	1	0.5	1	0.5
9	いか	1	0.5	1	0.5
10	いくら	22	11.2	22	11.5
11	オレンジ	0	0.0	0	0.0
12	カシューナッツ	18	9.2	18	9.4
13	キウイフルーツ	13	6.6	12	6.3
14	牛肉	0	0.0	0	0.0
15	クルミ	28	14.3	27	14.1
16	ゴマ	4	2.0	4	2.1
17	さけ	1	0.5	1	0.5
18	さば	0	0.0	0	0.0
19	ゼラチン	0	0.0	0	0.0
20	大豆	2	1.0	2	1.0
21	鶏肉	0	0.0	0	0.0
22	バナナ	2	1.0	2	1.0
23	豚肉	0	0.0	0	0.0
24	まつたけ	1	0.5	1	0.5
25	もも	2	1.0	2	1.0
26	やまいも	1	0.5	1	0.5
27	りんご	1	0.5	1	0.5
28	その他	23	11.7	23	12.0
	無回答	1	0.5	0	0.0

問１１　現在、自主的（医師の診断とは別に）に食物アレルギーの原因(と思われる)食物を制限又は除去をしていますか。

制限又は除去をしている場合、あてはまる食物すべてに○をつけてください。

表 32　自主的な食物アレルギー原因食物の制限や除去の有無

	症状又は診断あり		診断あり		「症状のみあり」95人	
	人数	%	人数	%	n	%
制限や除去をしていない	319	63.9	271	67.2	48	50.5
制限や除去をしている	142	28.5	117	29.0	25	26.3
無回答	38	7.6	15	3.7	22	23.2
総数	499	100.0	403	100.0	95	100.0

表 33　自主的に制限や除去をしている食物（複数回答）

		症状又は診断あり n=142		診断あり n=117		「症状のみあり」25人	
		人数	%	人数	%	n	%
1	鶏卵	46	32.4	41	35.0	5	20.0
2	牛乳	16	11.3	15	12.8	1	4.0
3	小麦	3	2.1	2	1.7	1	4.0
4	そば	28	19.7	25	21.4	3	12.0
5	落花生	28	19.7	23	19.7	5	20.0
6	えび	9	6.3	8	6.8	1	4.0
7	かに	11	7.7	9	7.7	2	8.0
8	あわび	8	5.6	7	6.0	1	4.0
9	いか	6	4.2	4	3.4	2	8.0
10	いくら	30	21.1	22	18.8	8	32.0
11	オレンジ	0	0.0	0	0.0	0	0.0
12	カシューナッツ	17	12.0	13	11.1	4	16.0
13	キウイフルーツ	6	4.2	4	3.4	2	8.0
14	牛肉	0	0.0	0	0.0	0	0.0
15	クルミ	22	15.5	16	13.7	6	24.0
16	ゴマ	0	0.0	0	0.0	0	0.0
17	さけ	0	0.0	0	0.0	0	0.0
18	さば	3	2.1	1	0.9	2	8.0
19	ゼラチン	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20	大豆	2	1.4	1	0.9	1	4.0
21	鶏肉	0	0.0	0	0.0	0	0.0
22	バナナ	1	0.7	1	0.9	0	0.0
23	豚肉	0	0.0	0	0.0	0	0.0
24	まつたけ	1	0.7	1	0.9	0	0.0
25	もも	1	0.7	1	0.9	0	0.0
26	やまいも	9	6.3	7	6.0	2	8.0
27	りんご	2	1.4	2	1.7	0	0.0
28	その他	20	14.1	15	12.8	5	20.0
	無回答	6	4.2	6	5.1	0	0.0

問１２　これまでに、ショック症状（注）を起こしたことがありますか。ある方は、回数も記入してください。

（注）　ショック症状：意識がない、意識もうろう、ぐったり、尿や便を漏らす、脈が触れにくい、唇やつめが青白い等

表 34　ショック症状の有無

	症状又は診断あり		診断あり	
	人数	%	人数	%
あり	38	7.6	38	9.4
なし	432	86.6	359	89.1
無回答	29	5.8	6	1.5
総数	499	100.0	403	100.0

表 35　ショック症状の回数

	人数	%
1回	31	81.6
2回	6	15.8
無回答	1	2.6
総数	38	100.0

問１３　アドレナリン自己注射薬（エピペン®）を処方されていますか。

表 36　エピペンの処方の有無

	症状又は診断あり		診断あり	
	人数	%	人数	%
処方されている	13	2.6	12	3.0
処方されていない	454	91.0	382	94.8
無回答	32	6.4	9	2.2
全体	499	100.0	403	100.0

表 37　エピペンの処方の有無と通所(園)状況（診断されたことがある 403 人）

	全体	通所（園）施設						
		認可保育所	認証保育所	幼稚園	認定こども園	1.～4.以外の保育施設	その他	無回答
総数	403	203	21	14	11	16	7	4
処方されている	12	6	1	1	0	1	0	0
処方されていない	382	193	19	12	10	15	6	4
無回答	9	4	1	1	1	0	1	0

問１４　これまでに、誤食（アレルギー症状を起こす食べ物を誤って食べた）で、食物アレルギーの症状が出たことはありますか。ありの方は、場所と原因（番号）をお書きください。

表 38　誤食による食物アレルギー症状の有無

	症状又は診断あり		診断あり	
	人数	%	人数	%
あり	89	17.8	87	21.6
なし	380	76.2	310	76.9
無回答	30	6.0	6	1.5
全体	499	100.0	403	100.0

表 39　誤食による食物アレルギー症状が起きた場所（複数回答）

	症状又は診断あり n=89		診断あり n=87	
	人数	%	人数	%
自宅	62	69.7	60	69.0
保育施設等	9	10.1	9	10.3
親戚・知人宅	16	18.0	16	18.4
飲食店等の外食先	28	31.5	28	32.2
その他	3	3.4	3	3.4

表 40　誤食による食物アレルギーの症状が出た原因・場所別（症状あり又は診断あり）（複数回答）

	自宅 n =62		保育施設等 n=9		親戚・知人宅 n=16		飲食店等の外食先 n=28		その他 n=3	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
調理段階で原因食材が混入した	12	19.4	0	0.0	3	18.8	0	0.0	0	0.0
誤って配膳された	0	0	5	55.6	3	18.8	1	3.6	0	0.0
他の人の食品を食べるか触れるかした	22	35.5	2	22.2	2	12.5	7	25.0	1	33.3
原因食材が明記されていなかった	6	9.7	0	0.0	0	0.0	3	10.7	0	0.0
原因食材の未確認	24	38.7	2	22.2	4	25.0	11	39.3	1	33.3
アレルギー情報が適切に伝えられなかった	3	4.8	0	0.0	1	6.3	2	7.1	1	33.3
アレルギー情報が共有されていなかった	2	3.2	0	0.0	4	25.0	1	3.6	0	0.0
その他	9	14.5	0	0.0	1	6.3	6	21.4	1	33.3
無回答	1	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

表 41　誤食による食物アレルギーの症状が出た原因・場所別（診断あり）（複数回答）

	自宅 n =60		保育施設等 n=9		親戚・知人宅 n=16		飲食店等の外食先 n=28		その他 n=3	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
調理段階で原因食材が混入した	12	20.0	0	0.0	3	18.8	0	0.0	0	0.0
誤って配膳された	0	0.0	5	55.6	3	18.8	1	3.6	0	0.0
他の人の食品を食べるか触れるかした	22	36.7	2	22.2	2	12.5	7	25.0	1	33.3
原因食材が明記されていなかった	6	10.0	0	0.0	0	0.0	3	10.7	0	0.0
原因食材の未確認	22	36.7	2	22.2	4	25.0	11	39.3	1	33.3
アレルギー情報が適切に伝えられなかった	3	5.0	0	0.0	1	6.3	2	7.1	1	33.3
アレルギー情報が共有されていなかった	2	3.3	0	0.0	4	25.0	1	3.6	0	0.0
その他	9	15.0	0	0.0	1	6.3	6	21.4	1	33.3
無回答	1	1.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

「これまでにアトピー性皮膚炎の症状がある」又は、「アトピー性皮膚炎と診断されたことがある」とお答えの方

問１５　アトピー性皮膚炎の症状が初めて起きたのは、何歳何か月頃ですか。数字でお書きください。

表 42　アトピー性皮膚炎の症状が初めて起きた年齢（6 ヶ月ごと）

	症状又は診断あり		診断あり	
	人数	%	人数	%
0～6ヶ月未満	224	40.1	96	31.4
6～12ヶ月未満	103	18.5	69	22.5
12～18ヶ月未満	78	14.0	41	13.4
18～24ヶ月未満	40	7.2	26	8.5
24～30ヶ月未満	68	12.2	48	15.7
30～36ヶ月未満	33	5.9	21	6.9
36ヶ月以上	7	1.3	5	1.6
無回答	5	0.9	0	0.0
総数	558	100.0	306	100.0

表 43　アトピー性皮膚炎の症状が初めて起きた年齢（3 ヶ月ごと）

	症状又は診断あり		診断あり	
	人数	%	人数	%
0～3ヶ月未満	142	25.4	39	7.0
3～6ヶ月未満	82	14.7	57	10.2
6～9ヶ月未満	79	14.2	54	9.7
9～12ヶ月未満	24	4.3	15	2.7
12～15ヶ月未満	67	12.0	38	6.8
15～18ヶ月未満	11	2.0	3	0.5
18～21ヶ月未満	35	6.3	24	4.3
21～24ヶ月未満	5	0.9	2	0.4
24～27ヶ月未満	54	9.7	39	7.0
27～30ヶ月未満	14	2.5	9	1.6
30～33ヶ月未満	22	3.9	14	2.5
33～36ヶ月未満	11	2.0	7	1.3
36ヶ月以上	7	1.3	5	0.9
不明	5	0.9	0	0.0
総数	558	100.0	306	100.0

問１６　治療中の方にお聞きします。現在どのような治療を受けていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

表 44　現在受けている治療内容（複数回答）

		症状又は診断あり n=558		診断あり n=306	
		人数	%	人数	%
スキンケアの指導		184	33.0	147	48.0%
薬物療法	ステロイド外用薬（塗り薬）	297	53.2	240	78.4%
	ステロイド内服薬（飲み薬）	16	2.9	15	4.9%
	上記以外の外用薬（塗り薬）	154	27.6	112	36.6%
	上記以外の内服薬（飲み薬）	34	6.1	27	8.8%
その他		17	3.0	13	4.2%
無回答		208	37.3	33	10.8%

問１７　医師からステロイド外用薬（塗り薬）の治療を勧められた際のお考えについて、あてはまるもの１つに○をつけてください。

表 45　ステロイド薬（塗り薬）の治療に対する考え

	症状又は診断あり		診断あり	
	人数	%	人数	%
使う	193	34.6	122	39.9
できれば使いたくないが、必要であれば使う	258	46.2	174	56.9
必要であっても使わない	2	0.4	1	0.3
その他	1	0.2	1	0.3
無回答	104	18.6	8	2.6
総数	558	100.0	306	100.0

問１８　アレルギーの有無とは関係なく、これまでに一度も食べたことがない食品（未摂取）がありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

表 46　アレルギーの有無とは関係な未摂取の食品（複数回答）

	全員 人数=2,727		食物アレルギーの診断あり 人数=403		食物アレルギーの症状のみあり 人数=96		食物アレルギーの症状及び診断なし 人数=2,195	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
鶏卵	6	0.2	4	1.0	0	0.0	2	0.1
牛乳	6	0.2	2	0.5	0	0.0	2	0.1
小麦	2	0.1	0	0.0	0	0.0	2	0.1
そば	620	22.7	101	25.1	30	31.3	485	22.1
落花生	667	24.5	116	28.8	30	31.3	517	23.6
えび	100	3.7	20	5.0	3	3.1	74	3.4
かに	489	17.9	73	18.1	22	22.9	392	17.9
あわび	2,309	84.7	314	77.9	80	83.3	1888	86.0
いか	627	23.0	92	22.8	20	20.8	507	23.1
いくら	996	36.5	154	38.2	37	38.5	800	36.4
オレンジ	24	0.9	6	1.5	1	1.0	17	0.8
カシューナッツ	1,400	51.3	193	47.9	59	61.5	1137	51.8
キウイフルーツ	180	6.6	29	7.2	7	7.3	143	6.5
牛肉	9	0.3	1	0.2	0	0.0	8	0.4
クルミ	833	30.5	117	29.0	31	32.3	681	31.0
ゴマ	11	0.4	0	0.0	0	0.0	11	0.5
さけ	6	0.2	0	0.0	0	0.0	6	0.3
さば	98	3.6	10	2.5	5	5.2	83	3.8
ゼラチン	40	1.5	2	0.5	0	0.0	38	1.7
大豆	4	0.1	0	0.0	0	0.0	4	0.2
鶏肉	2	0.1	0	0.0	0	0.0	2	0.1
バナナ	7	0.3	0	0.0	0	0.0	7	0.3
豚肉	6	0.2	1	0.2	0	0.0	5	0.2
まつたけ	1,922	70.5	279	69.2	61	63.5	1558	71.0
もも	60	2.2	12	3.0	0	0.0	48	2.2
やまいも	658	24.1	85	21.1	22	22.9	547	24.9
りんご	5	0.2	1	0.2	0	0.0	4	0.2
この中に食べたことのない食品はない	117	4.3	20	5.0	4	4.2	93	4.2
無回答	47	1.7	17	4.2	2	2.1	26	1.2

問１９　沐浴以外の子供のスキンケアの方法（洗い方や保湿剤の塗り方など）について知る機会はありましたか。「あり」の方は、あてはまるものすべてに○をつけてください。

表 47　沐浴以外のスキンケアの方法について知る機会

	全員		アトピー性皮膚炎の診断あり		アトピー性皮膚炎の症状のみあり		アトピー性皮膚炎の症状及び診断なし	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
あり	2,269	83.2	276	90.2	227	90.8	1734	81.4
なし	418	15.3	25	8.2	21	8.4	368	17.2
無回答	40	1.5	5	1.6	2	0.8	29	1.4
全体	2,727	100.0	306	100.0	250	100.0	2131	100.0

表 48　上記でありと回答の方へ、知る機会の詳細（複数回答）

	沐浴以外のスキンケアの機会がありと回答の方							
	全員		アトピー性皮膚炎の診断あり		アトピー性皮膚炎の症状のみあり		アトピー性皮膚炎の症状及び診断なし	
	人数	%	人数	%	人数	%	n	%
出産した医療機関・産院等	1,111	49.0	106	38.4	98	43.2	894	51.6
医療機関	1,233	54.3	208	75.4	183	80.6	828	47.8
新生児訪問	215	9.5	29	10.5	21	9.3	165	9.5
保健所・保健センター（乳児健診含む）	359	15.8	35	12.7	38	16.7	283	16.3
育児雑誌	678	29.9	60	21.7	68	30.0	540	31.1
インターネット	789	34.8	76	27.5	76	33.5	626	36.1
友人・知人	428	18.9	44	15.9	44	19.4	334	19.3
親族	315	13.9	31	11.2	31	13.7	248	14.3
その他	124	5.5	13	4.7	9	4.0	101	5.8
無回答	5	0.2	0	0.0	1	0.4	3	0.2
総数	2,269	－	276	－	227	－	1,734	－

問２０　現在どのようにスキンケア（洗い方・石鹸の使用・保湿）を行っていますか。　それぞれの項目で主に行っている番号１つに○をつけてください。

表 49　スキンケアの方法（体の洗い方）

	全員		アトピー性皮膚炎の診断あり		アトピー性皮膚炎の症状のみあり		アトピー性皮膚炎の症状及び診断なし	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
主にタオル類を使って洗う	424	15.5	33	10.8	33	13.2	348	16.3
主に手のみで洗う	2,218	81.3	264	86.3	215	86.0	1,714	80.4
その他	48	1.8	4	1.3	2	0.8	41	1.9
無回答	37	1.4	5	1.6	0	0.0	28	1.3
総数	2,727	100.0	306	100.0	250	100.0	2,131	100.0

表 50　スキンケアの方法（石鹸等の使用）

	全員		アトピー性皮膚炎の診断あり		アトピー性皮膚炎の症状のみあり		アトピー性皮膚炎の症状及び診断なし	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
石鹸等を使い、よく泡立てて洗う	2,077	76.2	239	78.1	190	76.0	1,619	76.1
石鹸等を使い、泡立ては気にせず洗う	351	12.9	31	10.1	27	10.8	291	13.7
石鹸等を使わず洗う	58	2.1	14	4.6	12	4.8	31	1.5
その他	204	7.5	18	5.9	20	8.0	162	7.6
無回答	37	1.4	4	1.3	1	0.4	28	1.3
総数	2,727	100.0	306	100.0	250	100.0	2,131	100.0

表 51　スキンケアの方法（保湿剤の使用）

	全員		アトピー性皮膚炎の診断あり		アトピー性皮膚炎の症状のみあり		アトピー性皮膚炎の症状及び診断なし	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
年間を通して保湿剤を使う	1,234	45.3	218	71.2	149	59.6	848	39.8
季節や皮膚の状況などによって保湿剤を使う	1,250	45.8	79	25.8	97	38.8	1,057	49.6
保湿剤はほとんど使わない	152	5.6	4	1.3	4	1.6	144	6.8
保湿剤は使わない	54	2.0	1	0.3	0	0.0	53	2.5
その他	4	0.1	0	0.0	0	0.0	4	0.2
無回答	33	1.2	4	1.3	0	0.0	25	1.2
総数	2,727	100.0	306	100.0	250	100.0	2,131	100.0

問２１　アレルギーに関する情報の入手方法として、あてはまるものすべてに○をつけてください。

表 52　アレルギー関連情報の入手の有無

	全員 N=2,727		何らかのアレルギーの診断あり n=1,033		何らかのアレルギー症状のみあり n=496		アレルギーの症状及び診断なし n=1,174		アレルギーの症状・診断無回答n=24
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
入手したことあり	2425	88.9	965	93.4	440	88.7	1001	85.3	19
特に得ていない	226	8.3	33	3.2	40	8.1	151	12.9	2
無回答	76	2.8	35	3.4	16	3.2	22	1.9	3

表 53　アレルギー関連情報の入手方法（複数回答）

		全員 N=2,727		何らかのアレルギーの診断あり n=1,033		何らかのアレルギー症状のみあり n=496		アレルギーの症状及び診断なし n=1,174		アレルギーの症状・診断無回答n=24
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
入手したことあり		2,425	-	965	-	440	-	1,001	-	19
入手方法（複数回答）	医療機関	1,966	81.1	855	88.6	309	70.2	738	73.7	64
	保健所・保健センター	573	23.6	194	20.1	84	19.1	273	27.3	22
	公的機関のパンフレット	400	16.5	137	14.2	63	14.3	190	19.0	10
	講演会や公開講座	77	3.2	39	4.0	9	2.0	29	2.9	0
	友人・知人	868	35.8	318	33.0	153	34.8	389	38.9	8
	ホームページ（東京都ｱﾚﾙｷﾞｰ情報navi.）	124	5.1	43	4.5	21	4.8	58	5.8	2
	親族	416	17.2	146	15.1	88	20.0	181	18.1	1
	育児雑誌	601	24.8	214	22.2	117	26.6	264	26.4	6
	ホームページ（専門の学会）	157	6.5	69	7.2	32	7.3	55	5.5	1
	書籍	272	11.2	112	11.6	48	10.9	110	11.0	2
	テレビ	581	24.0	199	20.6	115	26.1	266	26.6	1
	ホームページ（その他）	759	31.3	317	32.8	132	30.0	306	30.6	4
	その他	102	4.2	42	4.4	20	4.5	40	4.0	0

問２２　子供のアレルギーに関する情報について、今後ご希望するものがありましたら、項目と内容（番号）を選んでください。

表 54　アレルギーに関する情報の希望（複数回答）

	全員 N=2,727	
	人数	%
ぜん息について	1,076	39.5
食物アレルギーについて	1,265	46.4
アトピー性皮膚炎について	1,159	42.5
アレルギー性鼻炎について	1,140	41.8
アレルギー性結膜炎について	895	32.8
その他	42	1.5
特にない	749	27.5
無回答	310	11.4

表 55　アレルギーに関する情報の希望（各疾患の診断・症状の有無別）（複数回答）

	診断あり			症状のみあり			診断及び症状なし		
	総数	情報を希望		総数	情報を希望		総数	情報を希望	
		人数	%		人数	%		人数	%
ぜん息	213	144	67.6	335	159	47.5	2,145	765	35.7
食物アレルギー	403	221	54.8	96	51	53.1	2,195	985	44.9
アトピー性皮膚炎	306	184	60.1	250	151	60.4	2,131	814	38.2
アレルギー性鼻炎	231	152	65.8	309	165	53.4	2,137	810	37.9
アレルギー性結膜炎	108	64	59.3	101	51	50.5	2,464	772	31.3

表 56　アレルギーに関する情報について今後希望するもの（複数回答）

		総数	一般的な知識	専門医療機関の情報	治療方法	緊急時の対応	その他	無回答
ぜん息について	人数	1,076	826	365	389	586	7	1
	%	－	76.8	33.9	36.2	54.5	0.7	0.1
食物アレルギーについて	人数	1,265	844	418	446	851	21	4
	%	－	66.7	33.0	35.3	67.3	1.7	0.3
アトピー性皮膚炎について	人数	1,159	818	454	593	311	12	8
	%	－	70.6	39.2	51.2	26.8	1.0	0.7
アレルギー性鼻炎について	人数	1,140	815	435	599	303	10	4
	%	－	71.5	38.2	52.5	26.6	0.9	0.4
アレルギー性結膜炎について	人数	895	686	277	371	293	6	1
	%	－	76.6	30.9	41.5	32.7	0.7	0.1
その他	人数	42	21	13	15	18	6	4
	%	－	50.0	31.0	35.7	42.9	14.3	9.5

問２３　子供のアレルギーに関して、保育施設・幼稚園等へのご希望がありましたら、あてはまるものすべてに○をつけてください。

表 57　子供のアレルギーに関する保育施設・幼稚園等への希望（複数回答）

	全員 N=2,727		何らかのアレルギーの診断あり n=1,033		何らかのアレルギー症状のみあり n=496		アレルギーの症状及び診断なし n=1,174	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
アレルギー疾患に関する職員の理解と知識の向上	1,272	46.6	531	51.4	220	44.4	514	43.8
相談体制の充実	732	26.8	280	27.1	135	27.2	312	26.6
アレルギー対応食の提供	792	29.0	313	30.3	139	28.0	337	28.7
アレルギーの薬の預かり	903	33.1	417	40.4	168	33.9	313	26.7
その他	57	2.1	30	2.9	11	2.2	15	1.3
希望することはない	837	30.7	250	24.2	144	29.0	433	36.9
無回答	152	5.6	68	6.6	31	6.3	48	4.1

問２４　子供のアレルギーに関して、行政（都や区市町村）へのご希望がありましたら、あてはまるものすべてに○をつけてください。

表 58　子供のアレルギーに関する行政（都や市区町村）への希望（複数回答）

	全員 N=2,727		何らかのアレルギーの診断あり n=1,033		何らかのアレルギー症状のみあり n=496		アレルギーの症状及び診断なし n=1,174	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
住民へのアレルギー疾患に関する知識や情報の提供	1,170	42.9	402	38.9	210	42.3	548	46.7
住民への医療機関に関する情報の提供	971	35.6	353	34.2	185	37.3	426	36.3
保健・福祉・教育関係者に対する知識や理解の向上のための取組	1,035	38.0	400	38.7	190	38.3	439	37.4
食品表示の監視の徹底	846	31.0	346	33.5	144	29.0	349	29.7
その他	77	2.8	38	3.7	9	1.8	29	2.5
希望することはない	673	24.7	262	25.4	117	23.6	285	24.3
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

問２５　子供のアレルギーに関して、医療機関へのご希望がありましたら、あてはまるものすべてに○をつけてください。

表 59　子供のアレルギーに関する医療機関への希望（複数回答）

	全員 N=2,727		何らかのアレルギーの診断あり n=1,033		何らかのアレルギー症状のみあり n=496		アレルギーの症状及び診断なし n=1,174	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
薬や治療法などの十分な説明と相談対応	1,578	57.9	599	58.0	304	61.3	666	56.7
夜間や救急対応の充実	1,365	50.1	508	49.2	233	47.0	617	52.6
専門医療機関の増加	886	32.5	376	36.4	141	28.4	364	31.0
保健・福祉・教育関係者などへの指導	669	24.5	260	25.2	111	22.4	293	25.0
専門医への紹介等医療機関どうしの連携強化	796	29.2	314	30.4	155	31.3	322	27.4
その他	48	1.8	20	1.9	8	1.6	20	1.7
希望することはない	531	19.5	183	17.7	96	19.4	242	20.6
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

問２６　アレルギーに関してお困りのことなどありましたらご記入ください。

総回答者数：445 人

＜医療機関について＞
・医師により治療方針が違い、何を信じていいのかわからない。（7 件）
・大学病院を紹介されるもすごく待たされたと聞いたことあり、早く相談したいのに専門医療機関が少ない（5 件）
・対応、知識の差があるので、医師や医療専門職の知識向上を望みます。（4 件）
・薬や治療法などの十分な説明と相談対応を行ってもらいたい（4 件）
・病院の対応が悪いので、改善してほしい。
・皮膚科や小児科で早期に診断され正しい処方をしてほしい。
・仕事をしているため、どうしても夜の受診になってしまう。平日はもう少し受診受付時間を延ばしてほしい。

＜アレルギー検査について＞
・血液検査等でアレルギーの有無を検査する機会を設けてほしい（13 件）
・アレルギーの有無について何歳ごろから調べられるのか、調べたほうが良いのか知りたい。（2 件）
・アレルギー検査の費用はいくらかかるのかが分からない。
・そばにアレルギーがあるようだが、検査は何歳頃に行うのが適切なのかという情報がほしい。
・子供の年齢が低すぎると、医療機関にアレルギー検査自体を拒否される。
・アレルギー検査の項目を増やしてほしい。
・入園するまでにアレルギーチェックしておいた方がよい食品を知りたい。

＜治療・処方薬について＞
・ステロイドを使ってよいのか不安で悩んでいる。（4 件）
・アレルギー薬は、ずっと飲んで、体に影響がないのか不安。（2 件）
・毎日、飲み薬を飲ませるのが大変。
・ステロイド剤の安全性をもっと分かりやすく表示してほしい。
・塗り薬の使用方法について詳しく教えてもらいたい。
・処方してもらう保湿量では足りない。

＜症状について＞
・原因不明のじんましんなど、原因がわからないので不安。（5 件）
・アトピー性皮膚炎とただの肌荒れの見分け方など知りたい。（4 件）
・アトピー性皮膚炎と診断をされているわけでないが、乾燥等の症状で困っている。（4 件）
・アトピーがなかなか治らなくてつらい。（3 件）
・通年鼻水が出ているが、アレルギー性鼻炎と普通の鼻炎の違いや、対処方法がわからない。（3 件）
・花粉症による目の痒み対策を知りたい。（3 件）
・風邪との違いがわからない。（2 件）

・食物アレルギーがあると、食べさせることが怖い。(2 件)
・かゆみがあるとき、掻きすぎない対処方法が知りたい
・体調や季節によって症状が変わるので、そのような場合の対処法がわからない。
・アレルギー性鼻炎で毎晩鼻血を出している。耳鼻科を受診しているが良くならず困っている。
・成長につれてどうなっていくか知りたい。
・いつまでコントロールが必要なのかわからない。

＜受診のタイミングについて＞
・どのような症状で受診すべきなのか、受診のタイミングがわからない。(6 件)

＜医療費について＞
・抗アレルギー薬を保険適用外にすることはやめてほしいです。(2 件)
・夜間の咳込みで夜間救急を受診する機会が多く、負担がかかる。(2 件)
・ミルクアレルギーのため粉ミルク代が負担である。
・ぜん息の電動吸入器が高いので、購入できなかった。
・血液検査を安価、無料にしてほしい。

＜離乳食について＞
・アレルギーになる可能性のある食品の離乳食の詳しい進め方（例えば、離乳食を過ぎてから初めて食べさせるそばは、何歳から、量、ペースなど）について情報提供してほしい。(11 件)
・食物アレルギーについて、早めの時に摂取するのが良いのか、遅い方が良いのか、数年で情報が変わりすぎているように思う。
・食物アレルギーと診断されている場合の、今後の離乳食の進め方が分からない。
・初めての食品を食べさせるタイミングに悩む（休日・祝日など、緊急時の小児科医療機関が対応してくれるのか)。

＜スキンケアについて＞
・保湿が大切ということを、出産前か出産直後までに保護者が認知できるよう、情報共有してほしい（5 件）
・保湿剤の使用が近年特に勧められているが、季節や状況に応じた対処方法がわかりにくい。

＜アレルギーに関する情報について＞
・医療機関の検索に困る(専門分野、検査、治療等の情報が分かりづらい)　(10 件)
・信憑性に欠ける情報もあり、何が正しいのかよくわからないので、信用できる情報を発信してもらいたい。(5 件)。
・子供の友人などと接する時に、最低限の知識をもっていたいので、それを学べる機会や冊子がほしい。(4 件)
・花粉症、鼻炎に関する有効な情報が少ない。(2 件)
・アレルギーの症状の具体例、対応、治療方法などの分かりやすい情報が欲しい（2 件）
・ネットの情報ではなく、紙面にて知りたい。(2 件)

・薬アレルギーついての情報を知る機会がほしい。
・個々の医療機関の方針等の詳細情報がほしい。
・保健所等は、出産後のお母さんに対する指導が多い場所だと思うので、新しい知識の共有や勉強会をしっかり行って情報提供してほしい。
・食物アレルギーについて、健診時に説明してほしい。資料も配布しているかもしれないが、文字よりも口頭の方が頭に入りやすい。
・食物アレルギーは命に関わることなので。赤ちゃん訪問（１か月の時の）で情報がほしい。
・症状別に、どのような反応の時に、どの医療機関に行けばよいのか分かるようなサイト等がほしい。
・食物アレルギー対応食品の販売店の情報が欲しい。

＜通所（園）施設について＞
・アレルギー疾患に関する職員の理解と知識の向上が必要（6 件）
・通所（園）施設での給食は個別対応にしてもらえると大変助かる。(5 件)
・アレルギーが重く、子供を預かってくれるところがないことに困っている。(3 件)
・薬を預かって、必要時使用してもらいたい。(3 件)
・アレルギー性鼻炎があるが、掃除を徹底してもらいたい。
・保育園に薬の使用を依頼する事務手続きを減らしてほしい。
・児童館でも食事をする機会があるので、配慮してほしい。
・幼児にも理解できるようなアレルギーの表示（例えば幼稚園の制服につけるワッペンと食品のアレルギー表示が一致する）があれば、子供同士で食品の交換などをする場合のリスクが低減できるのではないか。
・日中は保育園に預けているため、細かいケアは頼みにくく、アレルギー対応のできるスタッフいるとお願いしやすい。保育園は人が少なく、先生に負担がかかるのは申し訳ない。

＜周囲のアレルギーに関する理解について＞
・アレルギーの理解をしてない人もいて、勝手に食物アレルギーのものを食べさせてしまうのが困る。(5 件)
・アレルギーは「親のせい」「人にうつる」「食べさせれば治る」等アレルギーに関して正しく理解していない人がいる。(4 件)
・アレルギーがない人の関心が低い。(3 人)
・これから育児をする可能性のある人にも少しは知識があると理解も深まると思う。
・犬等の動物アレルギーがあるが。犬を飼っている方は、犬アレルギーをもっている子供がいるという認識が薄い方も多く対応に困る。

＜アレルギー対応食について＞
・アレルギー対応食はおいしくなく、高いことが多いので、手軽に摂取できるものが、もっと種類、買える場所が増えると嬉しい。(2 件)
・乳製品アレルギーだが、どの食品でカルシウムを補えばよいのかわからない。

＜日常生活について＞
・薬を処方されるだけだが、生活習慣や食事指導などをしてもらいたい。(2 件)

＜外食・飲食店について＞
・スーパー等で、アレルギー物質の含まれていない食材が少なく、あっても高価なので困る。(4 件)
・外食先を探すのが難しいので飲食店のアレルギー表示を義務化してほしい。(3 件)

＜小学校での対応について＞
・小学校に入ると、アレルギー対応の給食は対応してくれないと聞くので、対応してほしい (5 件)
・小学校に入学した時、給食対応を保育園と同じように、ナッツ類、そばなど、重篤になりやすいものは除去してほしい。

＜家族にアレルギー疾患がある＞
・親のアレルギー疾患が遺伝するのではないかと不安になる。(4 件)
・親にアレルギー疾患がある場合、子供の発症予防策などがあれば知りたい。(4 件)
・親自身がアレルギー疾患で困っている。(2 件)
・３歳児（本人）の妹が喘息で、入院することもあり、土・日に兄弟を一時的に預かってもらえる施設をもっと増やしてほしい。
・食物アレルギーがあると兄弟の食生活も影響を受けてしまう。きちんと食卓が囲めず、食育や食事のマナーを教えるのに困っている。

＜保護者への支援について＞
・母親の勉強会やサークルなどを地区で開催してほしい。できれば、孤立しがちな乳児期に情報交換できる場があればと思う。(3 件)

＜行政の対策について＞
・「命がなくなってしまってからでは遅い」という意識をもって、法案をつくってほしいと思います。
・スギ・ヒノキをどうにかしてほしい。
・民間療法の取り締まりが必要。偽りの情報を使用した広告などは許せない。
・災害時にアレルギーがあっても食べられる非常食を備蓄していただけるとありがたい。
・国として、アレルギー対応指針があっても、自治体や施設によって、対応方法が異なるので指針にそった対応をすべきである。

＜その他＞
・アレルギーにならないために生活で気をつけることを知りたい。(3 件)
・対処療法でなく根本的な解決をしてあげたいが、その方法がわからない。(2 件)
・アレルギーかどうか食品を少しずつ試すことが大変なので、少量ずつのセットのようなものを提供してほしい。

・アレルギーの原因となる食品添加物の使用を減らしてほしい。
・３歳児健診のように、アレルギー診断も、診断できる年齢になったら医療機関または保健所等で診断してもらえるとよい。
・ぜん息と診断された子供は、民間の習い事が断られる事がある。規約にもそう書かれていた。もう少し緩和される事を期待している。
・くるみアレルギーについて、現時点では、日常的な食材ではないが、今後、食べられるようにすべきか迷っている。